捃拾帖

明治十七年三月
追〻に貼付

二十

A 00
6010

浪華東堀
平野橋東
茶舗先春園

優藥

先春園

菓子
製茶共進會

攝津國兵
庫三軒屋
町松尾義
勝製之造

明治十二年九月一日開場式菓子打物
神戸ニテ第二回製茶共進會

紅白緑ノ三種
但シ緑ハ茶葉ノ形チヲ用ウ

A00-6010

B 61009

男爵田中[illegible]寄贈
先代田中芳男旧蔵書
昭和七年

曝葛

曝葛

葛粉止渇去煩熱
解酒毒出於本州
熊川者其平皓潔
比之他產最上品
而其功亦多冀四
方君子其擇之
若州小濱
辻半三郎製

三冬文史
三冬文史

拜啓追々甚暑之候ニ趣候ニ付避暑等ノ爲メ御旅行ノ向モ不尠ト相考候間本月小集會ハ來ル七日ニ操上ケ午後一時ヨリ内山下町壹丁目壹番地農務局御所管内舊博物館ニ於テ臨時開會致候且又來八月小集會之儀ハ依例休會致候間左樣御承知可成御出席被下度御按内旁此段申進候也

明治十六年七月三日

大日本水產會

秋涼相催候處愈御安泰奉賀候然者贈太政大臣病痾中ハ毎々御懇切御尋被下忝奉存候薨去之節ハ早速御來弔殊ニ遠路御會葬尙又靈前ヘ御備物ニ預リ御厚意之段拜謝仕候本日忌明ニ付不取敢以寸楮御禮申上度如此候也

九月八日

岩倉具綱

本月及ヒ來月小集會ノ儀例ノ如ク第二土曜日（八月十一日九月八日）可相開筈ノ處豫テ報告第貳拾五號附錄ヲ以テ廣告候通農產品評會開設候ニ付テハ便宜ニ依リ本月ハ二十六日（第四日曜日）來月ハ二十三日（第四日曜日）ニ延期シ兩回共例刻ヨリ芝區三田育種場內本會事務所ニ於テ相開左記ノ宿題其他農事ニ係ル談話ヲ相催シ候ニ付御參會被下度右御案內申上候以上

宿題　果實一切ノ件

明治十六年八月七日

大日本農會

追テ御參會ノ有無共別段御通知ニ及ヒ不申候

拜啓大暑ノ節御座候處益御機嫌克奉大賀候每々御引立ヲ蒙リ不淺難有奉存候然ルニ家屋手狹ノ爲混雜致シ自然不行屆ノ儀有之何共奉恐入候依テ今回隣地ヲ合併致シ從來ノ如ク回漕及旅人宿營業仕候間一層ノ御愛顧ヲ奉希候先ハ暑中御伺旁御吹聽申上度捧短書候頓首

明治十六年七月二十日

函館東濱町廿、廿一番地

㊪ 宮路店

追啓本文ノ儀御懇意ノ御方々樣ヘ御吹聽御引立被成下度奉願候不具

拜啓追々甚暑之候ニ趣候ニ付避暑等ノ爲メ御旅行ノ向モ不尠ト相考候間本月小集會ハ來ル七日ニ操上ケ午後一時ヨリ内山下町壹丁目壹番地農務局御所管内舊博物館ニ於テ臨時開會致候且又來八月小集會之儀ハ依例休會致候間左樣御承知可成御出席被下度御按内旁此段申進候也

明治十六年七月三日

大日本水產會

秋涼相催候處愈御安泰奉賀候然者贈太政大臣病痾中ハ毎々御懇切御尋被下忝奉存候薨去之節ハ早速御來弔殊ニ遠路御會葬尚又靈前ヘ御備物ニ預リ御厚意之段拜謝仕候本日忌明ニ付不取敢以[illegible]楮御禮申上度如[illegible]

九月八日

本月及ヒ來月小集會ノ儀例ノ如ク第二土曜日八月十一日九月八日可相開筈ノ處豫テ報告第貳拾五號附錄ヲ以テ廣告候通農產品評會開設候ニ付テハ便冝ニ依リ本月ハ二十六日第四日曜日來月ハ二十三日第四日曜日ニ延期シ兩回共例刻ヨリ芝區三田育種場内本會事務所ニ於テ相開左記ノ宿題其他農事ニ係ル談話ヲ相催シ候ニ付御參會被下度右御案内申上候以上

宿題　果實一切ノ件

明治十六年八月七日

大日本農會

追テ御參會ノ有無共別段御通知ニ及ヒ不申候

拜啓大暑ノ節御座候處益御機嫌克奉大賀候毎々御引立ヲ蒙リ不淺難有奉存候然ルニ家屋手狹ノ爲混雜致シ自然不行屆ノ儀有之何共奉恐入候依テ今回隣地ヲ合併致シ從來ノ如ク回漕及旅人宿營業仕候間一層ノ御愛顧ヲ奉希候先ハ暑中御伺旁御吹聽申上度捧短書候頓首

明治十六年七月二十日

函館東濱町廿、廿一番地

㊪ 宮路店

啓本文ノ儀御懇意ノ御方々樣ヘ御吹聽御引被成下度奉願候不具

曝葛

葛粉止渇去煩熱解酒毒出於本州熊川者其平皓潔比之他産最上品而其功亦多冀四方君子其擇之

若州小濱

辻半三郎製

三冬文史
三冬文史

丹波
松蕈
牛込築土八幡町十壹番地
煮海館監製

壽泉苔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古[illegible]原[illegible]

川苔
福岡縣筑前國秋月
壽泉苔製造所
遠藤喜三右エ門

名古屋
名産

根本佐ゝ加ざり

本家佐々氏製

安眠蚊遣香

東京下谷區上野
公園地内櫻園舘舍
田中芳男様

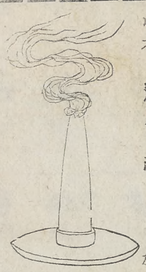
新發明 安眠蚊遣香

かやいらず

抑此安眠蚊遣香ハ客年二品有栖川宮殿下に陪從して歐州ヿ歷遊せられし工部兼宮内大書記官林董君伊太利ナープル府王宮ヿ宿られし宵酷く蚊の出たまヾ蚊帳を求られしにやかて一小塊の蚊遣香を持来りて云窓戸を閉ち是を薫せは終夜安眠を得へし故ヿ國人蚊帳を用る者なし是則伊太利ウエニス府にて製せる秘傳の藥法也と奇なる哉果然一蚊聲を聞かにて徹曉客夢穏さり其妙効を感するの餘り少許を齎し歸り工部大技長宇都宮三郎君ヿ謀り其秘訣を研究し方を予ヿ授らる予亦精練數回聊發明せる處あり製成て之を試むヿ煤氣の衝眼なく攘蚊の効彼製品ヿ伯仲し且其藥品毫も健康に害なし但本邦家屋ハ構造彼の如く罅隙無と能はも寢室も亦調度等の陰多く彼國定れる臥房ヿ用ふる如き全効を奏する難しされど孤舟を維て蘆岸に納涼し閒亭ヿ坐して月下ヿ吟唱を爽碁飲酌の際蚊軍の夜襲するヿ當り之を防くに侍婢揮扇の勞なく一縷の發煙克く十萬の鋭嘴を挫く其効偉矣と云べし然而一陣既ヿ敗るも生兵の進む有らハ再炷三炷を要せ又止むを得さる所也請ふ奇効を試ミ愛顧を賜へと云爾

約解

○此蚊遣ハいぶりて目に障るおとなし○惡しき香なく頭痛を起し又呼吸を害ふとなし○之を用ふるヿハ臥褥を展へいねんとせる時戸障子を能く締切り一炷をれば室内ヿ在る蚊ハ皆弱りて出て螫すとなし○厠ヿ上るに一炷すれバ尤妙○一小花片大凡十五分間と保つべし○火いれ又血の上ヿ置て附木ヿて火を移せバよく燃○十疊敷くらゐの坐敷ハよく締切り小花片一つ燃けバ充分ヿ足るべし○蚊帳ヿ蚊の入りたる時障子を閉て此香を焚けハ蠟燭ヿて蚊を熏くの勞なし此香ハ歳月を經るほと枯れて能く燃え功能少しも減るとなし



東京日本橋區室町三丁目十二番地
資生堂
山内藥房鑒製

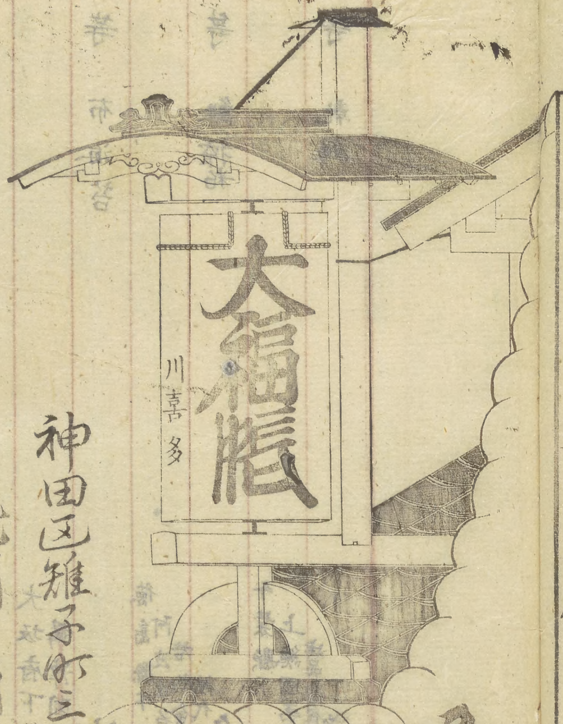
東京京橋區新肴町 理美流亭國米活版局印刷

三盆白

本白砂糖

諸国紙
西洋紙
格別安直売捌仕候

鉄茶奉書類 本漉り唐紙 新形唐紙類
同間似合類 伯笈〃 罫引紙類品
同鳥の子紙 五色唐紙 同写本〃
同大高檀紙 紅唐紙〃 同手帖〃
同中高檀紙 大中小画箋紙 更紗〃
同小高檀紙 箋面紙〃 金銀糸引類
同落用紙 金砂箋〃 凡品数手拭包
同杉原紙 詩箋品々 切手包〃
扇皮紙類 折手本〃 金札包〃
諸国半切類 式紙短冊 金銀紙類
絵半切品々 風流出鏡袋 和製洋紙類
罫引半切品々 新形千代紙 筆墨品々



御誂物
格別念入
出来仕候

神田区雉子町三拾二番地
魁聞堂 川喜多儀右衛門

西久保
八幡町
延屋鎚

灘 野善
参の井
権市詰

一挽 よし町
御香油
家煉 よし富

賜褒賞
東京玉寶堂發兌
各種選料名筆速
近馳名開張上梓之
黒門町 正是

大日本東京下谷 [illegible] 阪本 [illegible]
御菓子製所
桑泉 岡埜

寄留人転居
上野之岡[illegible]町[illegible]丁目[illegible]番地

記
一金貳錢
右正ニ受取候也
月　日
内國通運會社
[illegible]運賃

記
一銭也
右之通正ニ受取申候也
十二月十八日
田中保様
片山岩平

記
一金三拾錢　但　月分受業料
右相納候也
明治十五年　月　日
東京女子師範學校
御中

益御多祥奉大壽候陳者農藝志林之義体裁改良云々其筋へ出願中去ル八月迄休刊罷在候處今回官准ヲ蒙リ引續キ第拾三号發兌仕候ニ付御回送申上候自今出版之事業東京同益出版社（東京麹町區飯田町二丁目五十番地）へ相讓リ候間同社ヨリ直ニ御配達可仕就テハ第拾三号迄志林代金之義モ同社へ御回送被下度則調書左ニ

記

一金壹円拾七戔　農藝志林代
但自壹号至十三号

一金　郵便税

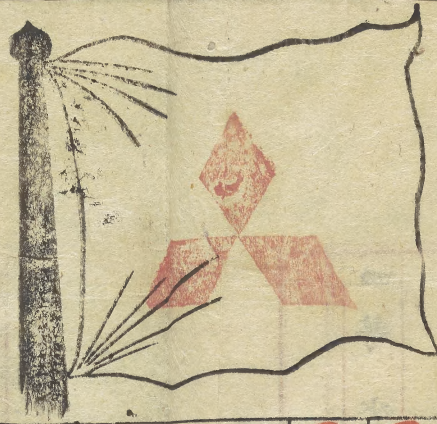
合計

右ハ此狀着次第通運或ハ郵便爲替ヲ以テ東京同益出版社へ御回金被下度尚引續キ御購求相成候ハヾ第拾四号以下前金及郵便税共併セテ御回送有之度此段申進候也

二伸本紙第拾四号ヨリ府縣勸業課報告ニ係ル書類府縣雜報ノ一項ヲ增加シ毎月發兌毎ニ掲載仕候尚農事ニ關スル御投書等有之候ハヾ掲載仕候間御郵送被下度候也

明治十六年　月　日

農藝志林社



三月一日荷物積切

三月二日出帆

大阪北濱通三丁目
㊀來谷復平

社寮丸

横濱東京行

十三年

筑前國秋月産物苔川砂糖漬

翠雲華

本舗
筑前國秋月遠藤喜三左衛門精製

玉蘭齋貞秀畫

萬象寫真圖譜
貳篇

東都書肆
羣寶堂發

古代模様集

明治十六年九月廿八日

請取証

物品	個數	斤數	賃金
芳鉄筆紙入	壱個		

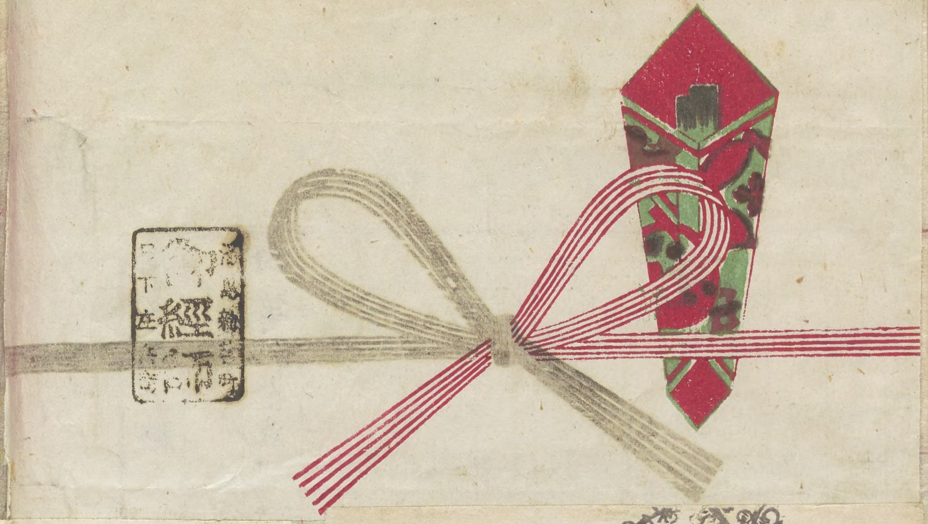
合金七銭

右運送賃金正請取候也

田中芳男様

下谷町貮丁目五番地角
榮通社

飛切
無類調合所
丁子香
廣田榮壽軒



一 書状 壱通
一 薬物 壱束
右正ニ請取候也
証
明治十五年十二月十九日
田中芳男様
田中

稟生選

是ハ生付の吉凶より士農工商向々乃備と不備とを知禍を除き開運幸福を得るの法なり夫人天より稟生の氣質禍福各同じからざること人の面の違如し因て是を不知時ハ禍多く生涯を過ぎりたる人一旦開運せしむる又破れ故に銘々の稟生を選萬事の吉凶を教諭して並ニ○當用運氣○願望○縁談○轉宅○其外何事によらず吉凶を判談いたし候也

浅草松葉町五十一番地
御門業の
禪香舘

明治十年東京上野公園内國勸業博覽會出品ニ付内務卿ヨリ褒賞ヲ賜リ仝年西京博覽會ニ於テ第二等賞

精撰 [illegible]

製造人
愛媛縣伊豫國宇广郡川之江
柴田辨二謹製

東京日本橋室町壹丁目壹番地

御結納
鹽乾魚

鰹節卸賣

諸國問屋 (治) 室伏治良兵衛

但シ品柄意ニ叶ハズ品ハ御持参並ニ御引換可申上候
代料ニテハ御断申上候也

上野西黒門町
御琴三味線師
重元平八

明治八年乙亥略暦

大	一日	月末
一	一日い	三十日
三	一日のゐ	三十日
五	一日い	三十日
七	一日ね	三十日
八	一日ひつじ	三十日
十	一日さる	三十日
十二	一日とり	三十日

小	一日	月末
二 平	一日むま	廿八日
四	一日と	三十日
六	一日むま	三十日
九	一日とら	三十日
十一	一日う	三十日

元始祭	一月三日
新年宴會	一月五日
孝明天皇祭	一月卅日
紀元節	二月十一日
神武天皇即位紀元	二千五百三十五年
神武天皇祭	四月三日
神嘗祭	九月十七日
天長節	十一月三日
新嘗祭	十一月廿三日

甲子：一月二日　三月三日　五月二日　七月一日　八月卅日　十月廿九日　十二月廿八日

金曜　平年　三百六十五日

庚申：二月廿七日　四月廿八日　六月廿七日　八月廿六日　十月廿五日　十二月廿四日

社日：三月十七日　九月廿三日

どよう	一月十七日　七月二十日　四月十七日　十月廿一日
小かん	一月六日
初むま	二月一日
せつぶん	二月三日
ひがん	三月十八日　九月廿日
日帯そく	四月六日
八十八や	五月二日
入梅	六月九日
げし	六月廿三日
はんげしやう	七月二日
二百十日	九月一日
とうじ	十二月廿二日

弘暦者東京椙田徳兵衛

京橋區采女町三十三番地
精養軒

御家 様

領證

一 菓實 壱籠
封書 壱通

八月廿日

品川弥二郎 執事

池の端仲町
小間物屋
大岡之丞

原價
一 カボチヤ 壱個　　證 第三十六號

右之品封印之儘正ニ受取配達仕候
但原價三圓以上ノ品ハ包ミ紙或ハ屆先名宛ノ附札ヘ品名原價御記載被下度若御書記無之品ハ三圓以下ノ物品トミナシ取計可仕候且不着取調三週間限リ

明治十年九月九日

京橋區
南傳馬町一丁目十八番地
品物配達所

八

目印 ◎ 千金丹

三拾五角入 改定價拾四錢
三拾角入 改定價拾錢
二拾角入 正定價七錢

主治 ○霍亂 ○痰咳 ○下り腹 ○しぼり腹 ○鬱氣 ○氣絶 ○積氣 ○胸痛 ○腹痛 ○諸飲 ○水害 ○酒醉 ○舩車醉 ○眩暈 ○頭痛 ○口中不浄

用法 ○頭痛には左右のこめかみにつけてはりてよし

抑此千金丹は我先祖代より對馬國に於て精製し此藥剤お世に施行事殆ど二百余年に及り患者是を用いて驗効を爲し諸彦希望すれ共絶海の離島にして其便を求るを得ず因て賣弘販賣便利を謀り假に東京便利の場所に於て尚一層製練に入念し大政府の撿査を經て以免許を得茲に販賣す四方の諸彦求て其効を實驗し玉わらバ幸甚々々

近來類藥多きに付◎日印を付し發賣仕來候千金丹の元祖弊店の家法効能の貴重なるを御信認被下御求の節ハ目印御吟味之上御求之程奉願上候

最予千金丹の驗効世人皆知る處にして日増に盛大相成候に我千金丹擬似◎印等付け賣出者もあきにしもあらざれバ住永回春堂よく御吟味之上御求被下度奉希候

錫入千金丹

大錫入 價貳拾錢
中錫入 價拾貳錢
小錫入 價六錢

附言本紙千金丹愛顧諸君の御好も有之危急の症を救んが爲先今般錫入千金丹を發賣仕候効能等ハ本紙千金丹と毫も異なるとなし短書なから御披露仕候

官許
元祖
東京神田區須田町十六番地
住永回春堂
同日本橋區本石町一軒店
住永同店

各支店

東京淺艸並木町五番地 堀田昇
同四ツ谷麴町拾弐丁目 森岡成堂
東京神田橋外美土代町 早川金鯱堂
同神田佐柄木町 小園文花堂
久留米通町三丁目支店 福童屋開益藏

西京府下京區鍋拾貳組 鳳凰閣金兵衛
大阪府西區江戸堀貳丁目 栗山綠雲堂
横濱太田町弐丁目 小林音治
宮城縣仙臺古河驛
朝鮮釜山浦居留地 黒岩喜三郎

讃岐屋幸助
近江屋助三郎
柳澤文吉
花柾木茶亭
山本德次郎
立花屋清兵衛
山澤屋喜右衛門
垣板巳之男
大原兼太郎
深田太兵衛
堺屋彦兵衛
鈴木源治郎
酒井親義

信濃國上田鍛治町 近江屋增兵衛
同國上田 堺屋長兵衛
同國海野町 柳澤富太郎
飛彈國吉城郡古川町 桐山源兵衛
上野國桐生町二丁目 書上定平
加賀國金澤上尾張町 野澤安右衛門
同國大聖寺新町 佐野和三郎
伊豫國大洲新屋敷 平井昌道
筑後國柳川西町 江中清九郎
同國柳川新町 横山養次郎
同國柳川常磐町 三ケ尻作之平
同國柳川外町 河野龜太郎
隱岐國西鄕港仲町 高梨東三郎

寶丹舍利別本舖
寶丹支店 神田富松町 堺屋伴岱藏
寶丹水發賣所
寶泉賣弘所 東京村松町 大浦屋岩浪長藏
本大取次賣弘所
神妙丸本舖 東京本町 圓城半右衛門
(他五畿内幷ニ繼達シ取扱所)
寶丹支店 大坂心齋橋 勉強堂伊藤彌吉

官東校ニ於テ蒙免許賣鬻後明治七年十二月十二日奉戴シ尚九年二月十日 内務省衛生局ノ許可ヲ得タル所也

速下丸

主治服方○及ビ取次人名之記

東京府下谷區池之端仲町二十七号地所有
守田治兵衛謹製

愛善社印行

御一家 各様
京橋區采女町三十三番地
精養軒

領證
一 菓子 壹箱
封書 壹通
八月廿五日
品川弥二郎
執事

池の端仲町
小間物屋
大嶋之丞

原價
一 カボチヤ壹個
右之品封印之儘正ニ受取配達仕候
但原價三圓以上ノ品ハ包ミ紙或ハ屆先名宛ノ附札ヘ品名原價御記載被下度若御書記無之品ハ三圓以下ノ物品トミナシ取計可仕候且不着取調三週間限リ
諸品八ヶ所證 第三十六號
上野公園 精養軒 田中ちゑ 殿
明治十年九月五日
品物配達所
京橋區南傳馬町一丁目十八番地
（印）品物配達所

官許
養生神劑
速下丸
主治服方○及ビ取次人名之記
明治四年二月 大學東校ニ於テ蒙免許賣鬻後明治七年十二月十二日文部省ニ於テ御免狀ヲ奉戴シ尚九年二月十日内務省衛生局ノ許可ヲ得タル所也
寶丹本舗
東京府下谷區池之端仲町二十七号地所有
守田治兵衛謹製

各地大取次所
文明 開花錠幷寶丹舍利別本舗
神田富松町 寶丹支店 堺屋伴岱藏
寶丹大取次幷寶丹水發賣所
東京村松町 寶泉賣弘所 大浦屋岩浪長藏
寶丹幷寶丹水大取次賣弘所
東京本町 神妙丸本舖 圓城半右衛門
寶丹 寶丹水○其他五畿内幷ニ北國西國行貨物繼ギ達シ取扱所
大坂心齋橋 寶丹支店 勉強堂伊藤彌吉

同新吉原仲ノ町 讃岐屋幸助
同下谷下車坂町 近江屋助三郎
同湯島天神町○よの花 柳澤文吉
同深川萬年橋 柾木茶亭
同深川森下町 山本德次郎
同内藤新宿仲町 立花屋清兵衛
同淀橋道中野中宿 山澤屋喜右衛門
同駒込殿中 垣板巳鉎男
同下谷通新町 大原兼太郎
同下谷坂本村○酒店 深田太兵衛
同本所柳島町 堺屋彦兵衛
同千住南組 鈴木源治郎
同千住北組 酒井親義
信濃國上田鍛冶町 近江屋増兵衛
同國上田 堺屋長兵衛
同國海野町 柳澤富太郎
飛彈國吉城郡古川町 桐山源兵衛
上野國桐生町二丁目 書上定平
加賀國金澤上尾張町 野澤安右衛門
同國大聖寺新町 佐野和三郎
伊豫國大洲新屋敷 平井昌道
筑後國柳川西町 江中淸九郎
同國柳川新町 横山養次郎
同國柳川常盤町 三ケ尻作之平
同國柳川外町 河野龜太郎
隱岐國西鄕港仲町 高梨東三郎

愛善社印行

目印 ◎ 千
主治 ○霍亂○痃……
用法 ○腹痛○……
○頭痛には左右……
抑此千金丹は我先祖代……に及り患者是を用いて……得ず因て賣薬販賣便利……の撿査を經て以免許を……
近來類藥多きに付◎目……るを御信認被下御求の……最予千金丹の藥効世人……付け賣出者もあきに……
錫入千……
附言本紙千金丹愛顧……必要仕候効能等ハ本……
官許
東京淺艸 各支……
同四ツ谷麹町拾……丁目
東京神田區外美土代町
同神田佐柄木町
久留米通町三丁目支店

明治十二年第五月九日免許改正發行

養生
神劑 **速下丸**

第一のぼせを引き下げりうゐん酒毒を下すこと眞に無比の妙藥なり

大袋入　定價　金　貳拾錢
中袋入　定價　金　拾　錢
小袋入　定價　金　三　錢

寛政年中ノ發賣ニシテ後屢良醫ニ就キ其藥方ヲ改正シ方今ノ奇効ヲ得タル良劑也

一　逆上症

○頭つうめまひ　○のぼせ眼によし　○耳の中鼻の中のできもの
○もろ〱の歯の痛み　○口中のんどかわき唇　舌のあれ痛み
○顔面のふきで　○平日にきびたへず顔色あかくほてる症
○耳鳴痛みまたハ遠くなり耳だれなどある人

右の諸症みな逆上よりおこるものなりゆへに此症を患る人ハ此速下丸を御用ひあらバ速かに其効を奏しおのづから健全の身となさしむると疑ひなし

一　留飲　酒毒　蚘虫

○むねのつかへむねのやけ　○酸液を吐く　○ねばきあわをはき
時々むねはらさしこみ痛む　○酒をのみ餅油氣麵るいなど食せバ
たちまちむねにつかへいたみ氣ふさぎまた吐逆する等の症

右の諸症多くハ留飲またハ酒毒あるひハ蚘虫とて腹中に生ずる蚯蚓の如き虫のわざなり凡これらの病ハみな平常飲食の不同なると兩便のつうじわるく食物の消化あしきより發るものなり此藥一とまハり用ひて必ず治す

一　癇症

○肩はりむねつかへ氣ふさぎ物に屈屈はやき症　○眼口ぴくつき手足筋ひきつりまたハ麻木などする症　○物ゑおどろきやすく常に動氣ありて夜とくとねふりかぬる症　○少しのとに心氣いらだち怒のいしる症

右ハみな癇症より發るものにして此病ハ高貴の人ゑ多く下賤の人ゑハ少しみなつね〲飲食の不同なると身体の運動あしきより生ずるなり故に此藥を毎夜おこたらず用ふれバ自然と内をとゝのへ逆上をゑづめ心氣を平かにし漸々と病根を退去せしむると妙々疑ひなし

右に記す諸病の外婦人血の道一切幷ニ疝氣○寸白○癪聚○氷腫○痢病の初發等によし

男女にかゝわらず兩便の通じあしきより發る諸病ハみな此藥にてかならず驗あらざるとなし故に平常心がけ掲ぐる所の症あるときハ速かに用ゆべし

一　用方

○壹度に三四拾丸程ヅヽ朝飯過と夜寢しなと日ゐ貳度ヅヽ用ゆ尤病ひつよき節ハ數もまし日ゐ三度ほど用ゆ兩便のつうじあるを以てきゝめとすかつせけんの通じ藥と違ひはら痛まずしてこゝろよく通じあること速下丸の妙とする所なり
○逆上症の人用ゆるゑハ毎夜寢しなゐ三四十丸づゝ用ひてよろし但シさゆにても茶にてもよし丸藥ハまるのみましてよろしきなり

明治九年丙子第五月經驗筆記
明治十二年已卯五月辰良校正

九世　守田治兵衛謹誌

目印　千

主治　○霍亂　○痰咳
用法　○腹痛　○諂
○頭痛には左石

抑此千金丹は我先祖代
に及り患者是を用いて
得ず因て賤沽販賣便利
の験を經て以免許を

近來類藥多きに付◎目
るを御信認被下御求の
最予千金丹の藥効世人
付け賣出者もなきにし

錫入千

附言本紙千金丹愛顧
御賣仕候効能等ハ本

官

許

各　支

東　京　淺　艸
同四ッ谷麴町拾丁目
東京神田橋外美土代町
同神田佐柄木町
久留米通町三丁目支店

池の端仲町
小間物
大

領
證

一
葉
封

八月

品銘
君の煙
百本入

三田農具製作所

大日本農會

大日本農會印刷場

墨汁用法

一 此墨汁使用の后筆を能く洗ひたまふべし
又墨汁濃き時ハ冷水を用ゆるを極ふ 茶又ハ白湯を混交し程能くのばして用ひあるべし 且尋常の擂墨と交用するも宜しのうれ

右のとふり御知らせ申上候

東京湯島四丁目四番地
陶器店

證

一 御重 一ツ
一 御菓物 一包

右正ニ請取候也

明治十六年
十二月十九日

湯島五丁目十番地
佐藤

田中様
御使御中

上野公園地
田中芳男様

證

一 菓子

右正ニ領收候也

明治　年十二月十八日

佐野
執事

領收之證

明治十六年四月十四日

博物局

官許 明治十三年

養生 神劑 速下丸

價二十錢

一壹度に三四十丸づゝあさめしまへと夜寝るまへと日に二度づゝ用也

一速上症の人用ふる時は毎夜寝るまへに三四十丸づゝ用ひてよろし

寶丹本舗 東京池之端仲町 守田治兵衛

○時そうかりかびを生じたる節は本舗にて引替へ申候

諸品入念

同 蒔絵物

同 金銀細工

同 珊瑚珠

東京須田町
長岡久右衛門

肥州嚴原

官許 東京神田須田町

千金丹

元祖 住永田春堂製

受證

一 菓子

十五年十二月十八日

田中不二麿

雁皮紙
團扇
東京日本橋
榛原直次郎

西京出店
御菓子司
赤坂表二丁目
黒川光正

此海粟ハ地州ニ製出スル外見ヲ美ニシテ色澤ニ加フル類ニアラス偏ニ正真ノ風味ト精製ヲ主トスル物ニ付御愛顧ノ諸彦宜シク其製意ヲ玩味シ品評ヲ給ンヿヲ冀フ

極製朱
和漢墨筆硯所
東京日本橋通壱丁目
印肉類
古梅園支店高村氏造

中川屋
長

現金
御誂無類飛脚所
浅草茅町壱丁目
無掛直
中川屋長右衛門

御菓子 上野廣小路

御菓子

各國麺包製造 東京湯島切通シ町

玉寶堂舗

本店各種名筆諸般文具揀
選精料是以辱上頭圖章
賞牌今又佳製加工專随
紳商所好貴客光顧者須認
明本號開張東京上野元黒門
街第十四号地發兇
五世　野村卯右衛門欽白

褒賜

宮内省御用
洋服裁縫所

KIN. YAMATOYA
Tailleur

大禮服小禮服
陸軍海軍官服
馬上服遊獵服
通常服其他一
切應貴客之御
註文調製仕候

東京芝口貳丁目
拾二番地
大和屋大谷金次郎

NO12, SHIBAGUTCHI-NITCHOME
TOKIO

賞牌

亡父祭祀相營候間乍失敬麁菓拜呈仕候御受納被下候半不堪感銘之至候頓首

従四位楠本正隆

お

楠本正隆

梅花亭
大傳馬三丁目
御菓子所
森田清翁

糸綿麻
小山屋彦

蒹葭堂遺物會廣告

蒹葭堂翁明博洽淹通最精物産之學凡自金石草木禽獸魚介昆蟲之屬至經傳史子異編奇篆法書圖畫莫不博搜購求其難獲者往々臨寫摹造以藏家至其詩文書畫篆刻煎茶之具亦皆然翁晩年値艱厄家道漸衰遺愛之物流離散逸亦將久而湮滅豈可不歎惜乎今也物産之學大開人知其為洪益則翁之遺物雖斷角碎石之微稚之為拱璧況曠古希世之珍其或藏同好之家尚存灌觀於今日者有之乎然則雖既散之物猶不散也今幸藉諸君之力開遺物會以示公衆則其必有觀感興起者是亦可以慰翁之遺靈也伏願同好諸君傾其藏弆以資此會

會設於大阪博物場自本年十月十五日至廿一日

出品取次所

東京 田澤靜雲堂

西京 島川清雅堂

雨森酔墨堂

北村文石堂

同志幹事

寺西易堂

後藤祥雲堂

倉澤奎雲堂

齋田松雲堂

遺墨及遺物出品之諸君直ニ博物場ヘ逓送アルモ妨ケ無キ也

十二年十月十九 大阪三角[illegible]

亡父祭祀相營候間乍失
敬麁菓拜呈仕候御受納
被下候半不堪感銘之至
候頓首

從四位楠本正隆

田中芳男様

梅花亭
大傳馬三丁目
御菓子所
森田清翁

浮世小路通り梅ヶ枝
糸綿麻るい
小山屋彦

蒹葭堂遺物會廣告

蒹葭堂公明博洽庵通最精物産之學
木禽獸魚介昆蟲之屬至經傳史子異
圖書莫不博搜購求其難獲者往々臨
藏家至其詩文書畫篆刻鑒賞茶之具
位兼巵家道斷焉遺愛之物流離散逸
藏豈可不歎惜乎今也物産之學大開人
則翁之遺物雖斷角碎石之微獲之為
希世之珍其或藏同好之家尚存舊觀
之矣然則雖既散之物猶不散也今茲
開遺物會以示公衆則其必有觀感興
以慰翁之遺靈也伏願同好諸君億藏
會設於大阪博物場自本年十月十五日至卅

出品取次所

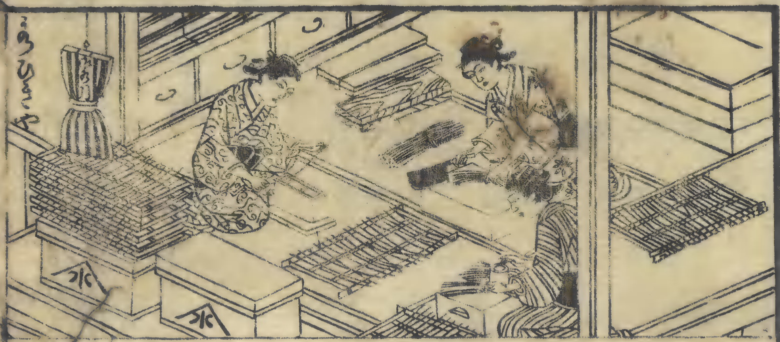
東京　田澤靜雲堂
西京　島川清雅堂
雨森醉墨堂
北村文石堂

同志幹事

寺西易堂
後藤祥雲堂
倉澤奎雲堂
藤田松雲堂

遺墨及遺物出品之諸君直ニ博物場ヘ遞送アルモ妨ゲ無キ也

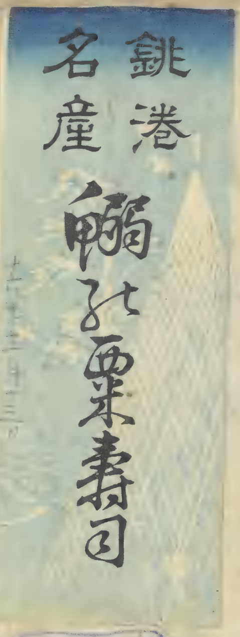
十六年十月十八　大阪三[illegible]ヨリ来

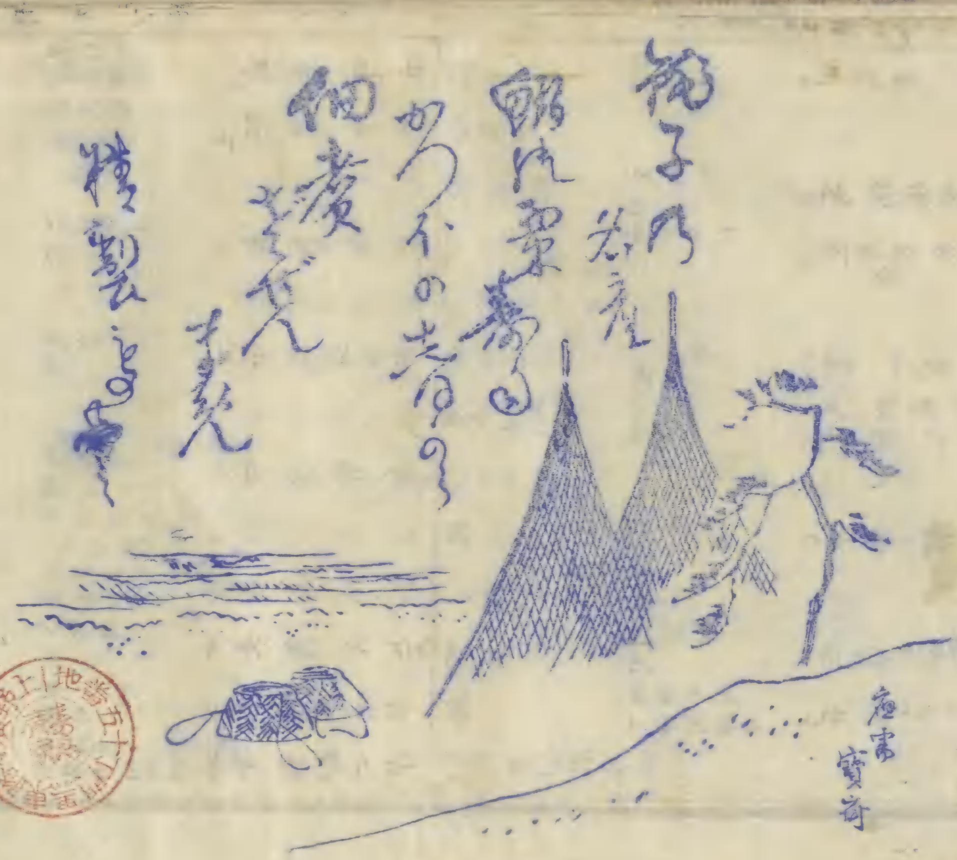


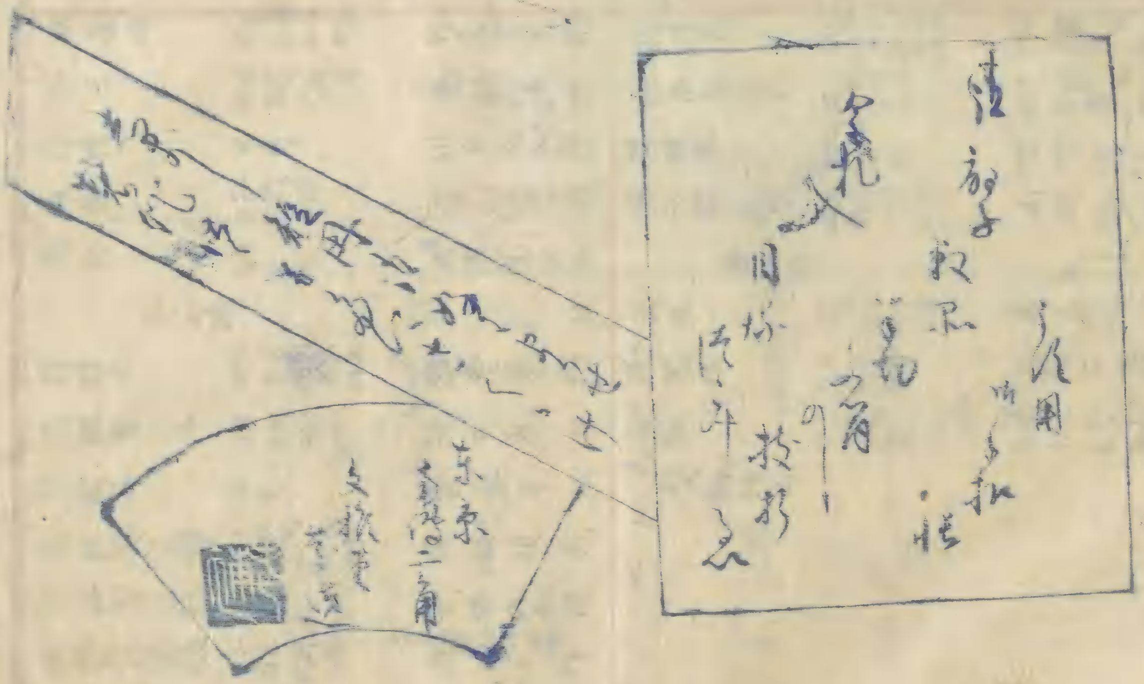
宮寺など都て
人おほくあつ
まれる所へ四十歳
より内ハ餘りに
行べからず

紙を漉業ハ楮をたゝき
黄蜀葵の汁をねばして
あふけハ三日を隔て漉り
漉簀をきりてむらなく紙数よ
へ〻かさね板ハ座をとりつく
これをすきひら〻板にかけて
かくてよく干しをさらく
それ〻ハかならずしん紙の
いにしへより 加賀の奉書
越前の鳥子を第一とし
杉原紙 美濃紙 岩城紙
鶉巻紙 檀紙 大高小
そのほか西の内 中折
さる紙 くわんたより 出雲
雲紙 雁皮紙 湊紙 中切
泉州やうな 唐紙 大長
大和紙
ならびにかぞへかたし

一巫覡などの事に
迷ひて神仏と
汚し近付猥に
祈るべからず只人間
の勤をよくすれば


銚港
名産
粟寿司





明治十四年

第二回內國勸業博覽會

褒状

麹漬鶉

○捕獲及製法

鶉ハ毎歳露凝テ霜ト爲ルノ候東南ヨリ西北ニ向ヒテ翔移スルモノナリ故ニ大抵十月頃ヨリ毎朝黎明ヲ俟チ數張ノ網ヲ山腹或ハ丘陵ノ上ニ張リ以テ誘致擒捕シ十一月頃寒甚シキニ及ヒ之ヲ止ムモノナリ然メ之ヲ麹醃スルノ法ハ第一新鮮ナル者ヲ撰ヒ其羽毛ヲ去リ之ヲ和鹽麹ニテ積ケ込ミ密蓋ヲ加ヘ重量ヲ置キ而メ后醇酒ヲ注キ以テ浸潤セシム故ニ決シテ饐餲腐敗等ノ恐レアルモノニ非サルナリ然リ而メ其貯蓄法ニ至ツテハ百方慮ヲ凝シ以テ醃製造爲スト雖其夏期ニ及ヒ風味ノ變セザル保方ハ未タ會テ發見スル能ハサルナリ故ニ之ヲ各地ニ運輸スル必ス二月中ヲ以テ限リトセザルヲ得ズ

○効用及料理方

夫レ漬鶉ヲ食セント欲セハ宜シク其時ニ臨ンテ之ヲ樽中ヨリ出シ（麹ノ附キタルマヽ）竹串ニ貫シ徐々炭火ヲ以テ之ヲ炙キ其外面ノ乾クヲ以テ適度トシ直チニ庖丁ヲ加フベシ然メ其冷カナラザルニ及ヒ之ヲ食スルトキハ風味最甘美ナリトス是ヲ以テ行厨ノ饌料及ヒ野宴ノ肴等ニ充ルトキハ尤輕辨ニシテ且佳品ナリ

○運輸之方

毎歳九月上旬ニ及ヒ愛顧諸官ノ投書ヲ承收シ以テ其準備ヲ爲シ置キ又十月ニ至テ其代價ヲ郵便爲替或ハ他ノ便宜法ヲ以テ領受シ而メ十一月下旬ヨリ始メテ樽詰ヲ以テ各方諸官ノ厨下ヘ運輸スルヲ定規トス庶幾ハ大方ノ君子其僻地ノ小品タルヲ以テ退ケラレス幸ニ眷顧ヲ賜ラハ眞ニ感激之ニ過ス

明治十五年一月

美濃國惠那郡明知

橋本幸八郎 虔

贈券

第一三七六號

物貨箇數貫目	差出方	請取人

爲替金	賃錢	合計

遞送人

右遞送候條其着御査入可被成候也

明治十五年 月 日

中馬會社

甲府原社

現今府下虎列拉病稍發生ノ兆アルモ未タ傳染ノ勢ナキカタメ或ハ本年ハ流行セサルヘシトノ妄信ニ安ンシ此際豫防ヲ怠リ飲食物ノ取捨ヲ爲サス等閑ニ經過スルニ於テハ其間モシ一旦該病ニ罹ルモノアラハ延テ全區ニ及ボシ遂ニハ府下一般ニ傳播スルモ測ルヘカラス實ニ恐ルベキノ悪疫ト謂フヘキナリ故ニ今ノ時ニ方リ專ラ豫防ノ方法ヲ計畫シテ以テ該病ニ感染スルモノナキ樣注意スルハ誠ニ緊要ノ急務ナレハ各自飲食ヲ謹ムヘキハ論ヲ俟タス既ニ警視廳東京府丙第百十四号達ノ趣モ有之總テ市街ノ清潔法ヲ主トシ且飲料ノ井水汚物ノ滲透スルモノ或ハ井側ノ破壞シタルモノハ修繕ヲ加ヘ總雪隱及ヒ芥溜ノ掃除ハ一層清潔ニシ溝渠下水ノ破壞シタルモノハ之ヲ修復シ又ハ壅塞瀦溜シテ快流セザルモノハ疏通セシムヘキカ如キ最モ猶豫シ難キモノナレハ各地面内ニ於テ該修繕掃除モシクハ疏通ニ着手スヘキモノアラハ速ニ竣功シ悪疫傳播ノ媒介トナラザル樣宜ク注意スヘシ此旨諭達候也

明治十六年八月

神田區長澤簡徳

地主差配人中

蘆粟栽培心得

凡そ砂糖は人生有用の食物にして開化の日に進むに隨て其の需用も亦月に年に増し現今外國より輸入する所の砂糖の價額は三百万圓の多きに及べりと其の夥多なる實に遺憾の至ならずや茲に明治十年東京麻布學農社より蘆粟種子若干を得連年試耕して本年良進なる白砂糖巨斤を得たり抑此植物たるや寒暖の嫌ひなく我か北越地方の如き甘蔗を産せさるの地にも此上もなき豊年の植物なり因て其の種子を四方有志の諸君へ頒ち此の業をして益々旺盛ならしめんことを希望をまた左に培養の概略を掲げ以て諸君の便覧に供す委しくは本社に來りて探問せらるべし

土質は　砂地または壚土を可とすれども黍玉蜀黍甘藷馬鈴薯等の生育つ地なれは總て蕃殖するものなり

下種は　四月の中旬より下旬までの間に種子を下してよしまた畑の都合に因りては床に蒔き付け置き七八寸にも暢びたる后ち四五寸隔に畠へ移植すべし

肥料は　最初は糟類二回には下糞汁三回には魚の洗汁四五回には干鰯を施すべし總て肥料は穂の出揃へたるまでにて終るべし又旱するときは度々水を灌ぐこと肝要なり

大日本農會

證

一柿　拾個

一豆　壹袋

一イヽゲヽ　壹把

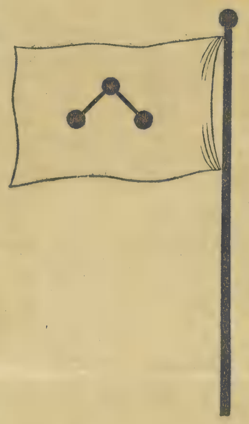
右者御送附相成領收候也

明治廿六年十月十三日

田中芳男殿　大日本農會

収獲ハ大凡九月中旬より下葉枯れかゝり黄色を帶びたるところ本社より派出して苅り採り時日を告ぐ然るときハ上下の二節を斷ち截り苞を剝き三四尺とし製糖所に送附るべし

此の植物の葉ハ家畜の飼料に用ひ實ハ人の食用として黍よりも味も上品なり



新潟縣下越後國中頸城郡

上増田村

北産社

コレラ病を發するとき醫士に求るまでに施すべき心得

第一　暴瀉するときハ。コレラ藥を。二十滴。或ハ。三十滴。少許の水に。和し。十分時。或ハ十五分時。毎に。用ゆべし。（四五歳前後の小兒にハ三滴より五滴まで十歳より十五歳までの者にハ七滴より十滴をあたうべし）但し。吐。又ハ。下痢止むときハ。直ちに。後服を。やむべし。假令ひ。吐下やまずとも。十回以上ハ。連服すべからず。

第二　手足少しく。冷れバ。温湯にて半身浴。又ハ。全身浴を。行ひ。後ち温に着て。發汗すべし。

第三　嘔吐そげしくして。藥及び水おさまらざるときハ。氷の細片を。頻々與ふべし。

第四　嘔氣。心下苦悶等。あるものにハ。胃部。又ハ下腹に。芥子泥を。貼すべし。其方。芥子末。三握。麵粉一握を。よく混合。酢にて。かたき糊のごとく。煉て。六七寸四方ほどの。木綿の切に。のばし。皮膚。紅くなりて。痛を覺ゆるまで。貼し置べし。（凡そ十五分時間より二三十分程まで）

農產品評會規則

第一條　本會ニ於テ毎月小集會ノ前日當日及ヒ翌日ノ三日間農業園藝ノ物產ヲ蒐集シ品評會ヲ開設スヘシ
但會場ノ位置ハ其時々報道スヘシ

第二條　本會員タル者ハ何人タリトモ總テ内外種ヲ問ハス自作ノ產物製品及ヒ之ニ連帶シタル物品ヲ出陳スルコヲ得其出品重大ナルモノハ豫メ本會ノ承諾ヲ受クヘシ
但毎回品評スヘキ品目ハ其都度豫メ報告書ヲ以テ會員ニ報道スルモノトス其品目外ノ產物製品ヲ出陳スルハ隨意タルヘシ

第三條　本會員外ト雖トモ官廳等ノ產物製品ハ第二條ニ準シテ其出陳ヲ諾スヘシ

第四條　出品ハ途中腐敗若クハ毀損等ノナキ樣ニシ開會前日迄ニ必ス本會ニ着スル樣遞送セラルヘシ

第五條　出品ニハ出品主ノ府縣國郡區町村氏名及ヒ物名、員數、賣價（非賣品ナレハ其旨ヲ記ス）ヲ記シ且成ルヘク移殖ノ原由年月、種類、產地ノ風土、地質、種藝、培養、保護、收量、需用、損益、從來受賞ノ有無、發明等ヲモ詳記シテ添ヘラルヽヲ要ス
但近傍ノ人ハ自ラ出品ヲ持參シテ說明スルモ妨ケナシ

第六條　出品ハ品評委員之ヲ品評シ其優等ナルモノニハ本會頭ヨリ褒賞ヲ附與スヘシ
但品評品目外ノ物品ハ此限ニ非スト雖トモ本會ノ意見ニヨリ與フルコアルヘシ

第七條　會場整頓出品陳列等ニ關スル一切ノ事務及ヒ費用ハ本會ニ於テ負擔スヘシ
但出品運送費ハ都テ出品主ノ自辨タルヘシ

第八條　出品ハ開場中賣買ヲ約定スルコヲ得ルト雖トモ閉場後ニ非サレハ場外ニ持出スコヲ許サヽルヘシ

第九條　出品ハ豫テ別段ノ報知アルニ非サレハ返付セサルヘシ
但其賣却シタル物品ノ代金ハ爲換手數料郵便稅等ヲ引去リ殘金ヲ返付スヘシ

第十條　出品主ノ出京スルト否トハ隨意タルヘシ
但旅費ハ自辨タルヘシ

第十一條　品評委員ハ本會ノ農藝委員及ヒ其業ニ熟練ナル者ヲ本會頭ヨリ指名シテ之ニ充ツヘシ

第十二條　品評委員ハ毎品其優劣表ヲ製シ褒賞ノ等位ヲ按シテ本會頭ノ决行ヲ請フヘシ

第十三條　品評委員ハ自已ノ出品ヲ品評スルコヲ得ズ

第十四條　本會員ハ毎回其品評スヘキモノニ關スル書籍物品等ヲ參考品トシテ出陳スルコヲ得べシ

第十五條　出品ハ本會ニ於テ成ルヘク丁寧ニ保護スト雖トモ非常ノ損害ハ其責ニ任セサルヘシ

第十六條　會場ハ公衆ノ入觀ヲ許ス其入場料ハ壹人金貳錢トス
但本會員ハ會員証ヲ携フルトキニ限リ入場料ヲ要セス入員ハ時機ニヨリ之ヲ限リ或ハ全ク止ムルコアルヘシ

大日本農會

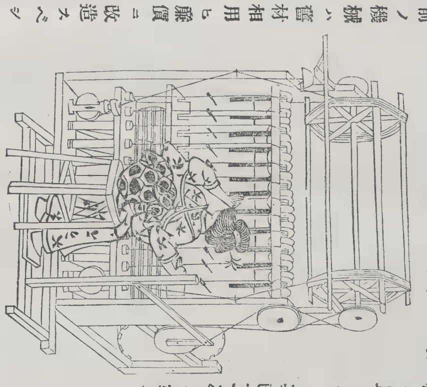
繰絲機械廣告

燒印 [繰絲賞牌 臥雲辰致]

十五口壹人取　價拾六圓
一日糸量百八十目

五十口二人取　價三拾圓
一日糸量六百五十目

從前ノ機械ニ比スレハ其改頁左ノ如シ
一絲口揃ヒ切斷ノ憂ナシ
一絲尺倍シ捻方充分ナリ
一運轉輕ク卷回ノ勞ナシ
一經絲ニ用ヒ織上リ好シ



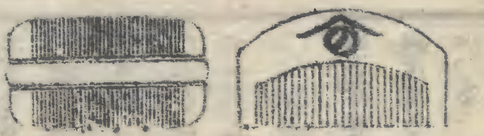
但從前ノ機械ハ舊材相用ヒ廉價ニ改造スベシ
余カ綿絲機ハ明治十年初メテ內國勸業博覽會ニ出シテ鳳紋賞牌ヲ獲シヨリ摸倣一時ニ遍ク再ヒ改造ノ機ヲ第二回博覽會ニ陳シ進步ノ賞ヲ受領セリ然ヒ其裝搆猶完全ナラス爾后益工思ヲ凝シ始テ改頁ノ功ヲ奏セリ因テ普ク需求ニ應シ世益ヲ弘メント ス唯擬造効用ヲ誤ルモノアルヲ恐ル世人宜ク上ノ燒印ヲ證トシテ辨識スヘシ

發明製造人　東京小石川竹早町八番地　臥雲辰致
取次賣捌所　同湯島天神町二丁目廿九番地　內山留五郎

佐藤家遺書刊行目次

農政本論　八冊
培養秘録　四冊
土性辨　三冊
草木六部耕種法　十六冊
田畯年中行事　一冊
種樹園法　三冊
天地鎔造化育論　三冊
垂統秘録　一冊
隄防溝洫志　四冊
經濟要録　七冊
山相秘録　二冊
漁村維持法　二冊
內洋經緯記　一冊
物價餘論簽書　近刻　二冊
種樹秘要　近刻　一冊
經濟問答秘記　二冊
硝石製造辨　一冊
作䤈製造方　一冊

現金安賣
御櫛所
通り諸合
御唐櫛



東 湯島切通坂上
京

矢羽根類
羽幕類
羽根塵掃類
揚弓矢類
羽根揚枝
大弓矢類
ツク羽根類

東 浅草區茅町貳丁目
萬羽根問屋
京 羽根屋中野作兵衛

小指口印 日本東京 高木壽穀

貳十五錢

練りようかん

御用 日光本町壹丁目
御菓子司
綿屋半兵衛

皇帝
皇后
両陛下来ル十二日午後二時赤坂仮皇居ニ於テ観菊會御催ニ付御参入可有之此段及御案内候也

明治十六年十一月五日

宮内大輔杉孫七郎

元老院議官田中芳男殿
同令夫人

當日雨天御順延ノ事
フロツクコート着用

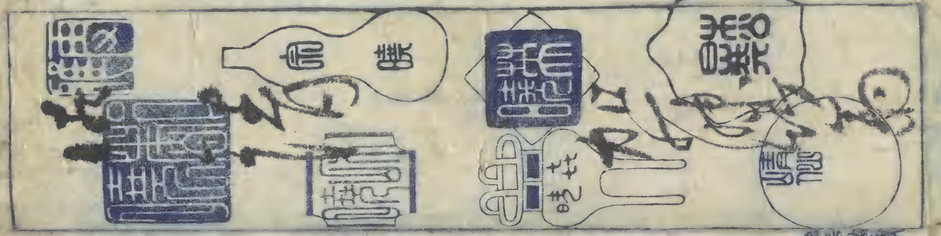
ヨリ入リ御車
モ御車寄ヨリ
事
ノ事
ニ於テ日傘鞭
等ヲ用ユベカ
ラズ）
ハ白襟紋付或

元老院議官田中芳男殿

田中元老院議官

田中元老院議官

田中元老院議官



皇帝
皇后兩陛下來ル十二日午後二時赤坂假皇居ニ於テ觀菊會御催ニ付御參入可有之此段及御案内候也

明治十六年十一月五日

宮内大輔杉孫七郎

元老院議官田中芳男殿

同令夫人

當日雨天御順延ノ事

フロックコート著用

ヨリ入リ御車
モ御車寄ヨリ
事
ノ事
ニ於テ日傘鞭
等ヲ用ユベカ
ラズ)
ハ白襟紋付或

掛物類製所
和漢砂糖類
氷掛金米糖
珍物砂糖漬
㊥神田鍛冶町二丁目
越前屋兵蔵

日本
白砂糖

一當日赤坂假皇居正門ヨリ入リ御車寄ニテ下車退散ノ節モ御車寄ヨリ乗車正門ヨリ出ツル事

一各員宮中ニ於テ拜謁ノ事

一婦人ノ外各員御苑中ニ於テ日傘鞭杖或ハ襟巻引廻合羽等ヲ用ユベカラズ(外套(オーバーコート)ハ此限ニアラズ)

一婦人着服ハ褂緋袴又ハ白襟紋付或ハ西洋服ノ事

田中光顕書

品名	數	届先	姓名	運賃	元價
[illegible]包	壱個	[illegible]	[illegible]	金[illegible]	金[illegible]

右御封印ノ儘正ニ受取候也

明治十一年十一月二日

諸港行貨物
乘客投問屋

神田區田代町九番地
上田屋丹治

田中芳男殿

證

[illegible]

右正ニ落手候也

明治十[illegible]年十一月十三日

元老院

田中[illegible]殿

第二百四十四號

記

一厚札紙　五百枚

右御寄贈被成下難有受納仕候以上

明治十六年十一月十三日

大日本農會幹事長
品川彌二郎

特別會員田中芳男殿

證

一 [illegible]

右正ニ領收候也

明治十七年十二月十日

大日本農會

田中芳男殿

第三七號 納人 植原經儀

一金 [illegible]
但書籍[illegible]

右現金出納局ヘ相納領收ノ證印ヲ受ヘク候也
但現金領收ノ證印ヲ受タル上ハ當廳ヘ納付ヲ了シタルモノトス

明治十六年十月十八日
會計局長
文部大書記官中島永元

右現金[illegible]
正ニ領收候也
明治十六年十月[illegible]日
出納局金錢取扱方
三井銀行

證

一 [illegible]

右正ニ領收候也
明治十六年十月十七日
佐野 執事

證
第四二號

一金 [illegible]
但 [illegible]

右正ニ領收候也

明治十六年八月廿九日
東京芝區三田四國町
農具製作所

田中芳男殿

通信料確受証

第[illegible]號	音信 [illegible]
金 [illegible]	賃届 [illegible]
明治十六年 月 日	出状人 [illegible] 受信人 [illegible]

第三七號 納人 植原経儀

一金拾七銭也
但書類排下代

右現金出納局ヘ相納領收ノ證印ヲ受ヘク候也
但現金領收ノ證印ヲ受タル上ハ當廳ヘ納付ヲ了シタルモノトス

明治十六年十月十八日

會計局長
文部大書記官中島永元

内務省會計局

證

一金

右正ニ領收候也

明治十六年十月十七日

佐野
執事

證

第四三號

一金
但

右正ニ領收候也

明治十六年八月廿九日

東京芝區三田四國町
農具製作所

田中芳男殿

通信料受確証

第　號
音信
金
賃届
受信人
出状

明治　年　月　日

領證

一 不参届 壱通

十月十七日 式部寮

田中芳男殿

記

一 農務局長兼務之義ニ付 御書 壱通

右正ニ領收候也

明治十六年九月廿日

農商務省

農務局

領收證

一金 [illegible]

但 [illegible]

右正ニ領收致候也

明治十六年十月廿五日

逓信省

田中芳男殿

領證

一 御封書 一通

一 [illegible] 一個

右正ニ受取申上候也

十六年十月三日

松原

物貨受取証

番号	品名数	量目	運賃
五六五五	一桁 紙包	[illegible]	[illegible]

届先 地名 姓名	物價	配達料
[illegible]		

印紙 1 SEN 一錢

右御封印ノ儘正ニ受取送達可仕候也

明治十六年十月廿日

内國通運會社

田中壽男

證

一金弐拾五錢

右之通請取申候也

十六年八月廿日

東京[illegible]佐久間町二丁目十八番地

西村新七

田中壽男

領收之證

一金壹円拾七錢也

自 才壱号 至 才拾三号

農藝志林 部代

右正ニ受取候也

明治十六年九月廿二日

東京麹町區飯田町二丁目五十番地

東京同益出版社

田中壽男殿

領收之證

一金 [illegible]

自 至

農藝志林 部代

右正ニ受取候也

明治十七年 月 日

東京麹町區飯田町二丁目五十番地

東京同益出版社

田中壽男殿

三川路

明治十七年十二月三日

貨物輸出記

届先姓名	元價	
東京上野 山岡下谷入谷 田中芳男様		い加積屋

出貨主	
伊勢四日市湊 黒川彦左エ門	丹羽修伯

運賃濟

配達請拂先拂

東京 配達舎

蒸氣 玄海丸

向所	神戸	横濱	長崎	上海
荷物請取	一月 日午 時限			
御客乗込	一月七日午 時限			
横濱出港	一月 日午 時限			

來客荷物取扱所
神田 外角
武蔵屋彦太郎

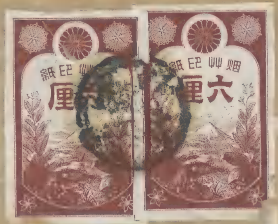
神田區三河町壹丁目壹番地
明煙社鈴木勇次郎製

二十目

金拾四錢

中荒切

官許
荒切
やなぎ煙草
御用御煙艸調進所
神田三河町壹町目
鈴木製



書留郵便物請取證

第二二六號

請取人	差出人	書状	書籍
大坂東區 三角 有物	東京上野公園 田中芳男	一 通	冊

孚帖粉清

愛知縣下
名古屋區
裏之棚
近直製

麴町區内山下町鹿鳴館落成候ニ付
来ル二十八日同館ニ於テ夜會相催
候條午後八時半ヨリ御来臨被下度
致希望候也
但小禮服

明治十六年十一月二十一日

外務卿 井上 馨
同 妻

議官
田中芳男殿
同令夫人

田中御用掛殿

明治十六年十一月二十六日夕於延遼館

饗應獻立

一羹汁 鳥肉牛乳油製
一魚肉 細魚鰕巻製蒸燒
一鳥肉 雉子肉結冷製
一獸肉 犢蒸菱栗製
一鳥肉 鴫笹肉伊太里製
一獸肉 牛脊肉洋菌製
一蔬菜 牡丹菜製

一蔬菜 洋豆牛乳製
一鳥肉 暹羅鷄蒸燒製
一製菓 牛乳鷄卵蒸製
一同 挽茶入牛乳油製
一同 菓子 數品
一菓實 和洋 數品
一食事臺餝 數品

三ツ入

[illegible]

領證

一 [illegible] 書

十一月廿五日

田中元老院議官殿

式部寮

領收之證

一 [illegible]

十六年十一月廿三日

農商務省北海道事業管理局

麹町區内山下町鹿鳴館落成候ニ付
来ル二十八日同館ニ於テ夜會相催
候條午後八時半ヨリ御来臨被下度
致希望候也
但小禮服

明治十六年十一月二十一日

外務卿井上馨
同　妻

議官
田中芳男殿
同　令夫人

田中御用掛殿

證　第　五　號

原價
一金三銭

右之品封印之儘正ニ受取配達仕候
但原價三圓以上ノ品ハ包紙或ハ届先名宛ノ附札ヘ品名原價御記載被下度若御書記無之品ハ三圓以下ノ物品トミナシ取計可仕候且不着取調三週間限リ

明治十七年一月九日

田中芳男様

京橋區
南傳馬町一丁目十八番地
品物配達所

領證

領收之證

農商務省北海道事業管理局

Menu

DU

Diner du 26 Novembre 1883

A L'ENRIO-KUWAN.

Potage crème de l'orge à la Royale.
Filets de poisson à la Venitienne.
Galantines de faisans en belle vue.
Escalopes de veaue purré de marrons.
Filets de sarcelles sauce à l'Italienne.
Filet de bœuf à la Princesse.
Choux farcis.
Petits pois à la Française.
Chapons truffés.
Pouding à la cabinet.
Chantily au thé.
Desserts-assortis.
Café.

拾弐掛

清浄神佛
春掛徳用
暑中請合
生蠟燭
東京上野廣小路角
山崎屋勘兵衛製

口演

一下り掛箱詰蠟燭之儀ニ付近来追々不締相成候ニ付今般更ニ別仕入ニ改正致古実以生蠟ヲ巻掛ケ製造仕り[illegible]暑中ニ[illegible]共[illegible]変り[illegible]無之[illegible]口堅ク立流レ[illegible]御徳用専一ニ仕立候故何卒御試之上御用向御偏ニ奉願上候以上

受取之証

品名	數	届先姓名	運賃	元價
一[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	

右御封印ノ儘正ニ受取候也

明治　年　月　日

諸港行貨物
乗客扱問屋
神田區田代町九番地
上田屋丹治

[illegible]

受取之証

品名	數	届先姓名	運賃	元價
一[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	

右御封印ノ儘正ニ受取候也

明治十[illegible]年十二月四日

諸港行貨物
乗客扱問屋
神田區田代町九番地
上田屋丹治

[illegible]

拾五挺

清浄神佛
巻掛徳用
暑中請合

四生蠟燭

東京上野廣小路角
山崎屋勘兵衛製

四拾挺

口演

一 下り挺箱詰蠟燭之儀ハ近来追々不評判ニ相成候ニ付今般更ニ別仕入ニ改正致古実ヲ以テ生蠟ヲ巻掛ニ製造仕り候得者暑中ニ相成候共聊か変り不申流口堅ク立流レ等決而無御座候御徳用第一ニ仕立候故何卒御試之上御用向御偏ニ奉願上候以上

受取ノ證

數	届先姓名	運賃	元價

右御封印ノ儘正ニ受取候也

明治　年　月　日

諸港行貨物乗客扱問屋
神田區田代町九番地
上田屋丹治

受取ノ證

數	届先姓名	運賃	元價

右御封印ノ儘正ニ受取候也

明治十一年十二月四日

諸港行貨物乗客扱問屋
神田區田代町九番地
上田屋丹治

尾張宮重大根種子販賣廣告

古來世に**尾張大根**と稱するハ卽ち本郡より產出する**宮重大根**にして其名を全國に博するハ世人の能く知る所なり然るに眞正の宮重大根ハ近隣海東郡方領村產の青白肥大なるものに限り左圖の如く形ち小にして味ひ最も甘美なり其種子を採るの法ハ毎年十二月大根收穫の際良質を撰び肥土に移植して風害を防き充分培養を加へ翌年六月採收す其手數容易ならす隨て多く良種を得難し故に從來各地の請求に應するを得さる事往々これあり但時立種と稱し秋季土用の候播實（ミマキ）となせば其收量三倍の增加あるのみならす最も煩勞を省くの益ありと雖も性質粗惡風味大に劣れるを以て我地方にてハ決して之を行ハす然るに奸惡なる種子商等多くハ此種を購入し或ハ此古種を混合し販賣する等種々不良の策を施し遂に宮重の美名を墜すへくも難計甚遺憾の至りに付同志者茲に見あり這回官許を得て**西春日井郡宮重組**と稱し元組を愛知縣尾張國西春日井郡鍛冶ヶ一色村二十五番地に置き取次所を全郡下小田井村五百三十一番地に設け益々良種を精撰し廣く世の購求に應せんとす種子要望の諸君ハ住所姓名及び種量を記し毎年十月中に御申込ありたし然るときハ翌年五月種子成熟の概況を以て相場相定め（凡壹圓三舛替）御報可及候付代價の義ハ當組種子取次所卽ち西春日井郡下小田井村五百三十一番地矢橋吉右衛門（郵便爲換取扱役なり）へ宛て爲換を以て御送附相成度右金到着次第直に種子回送すべし（諸官衙御用ハ此限りにあらす）尤遞送費ハ着荷の上御拂ありたし○當組ハ注文外の種子を作らす然れとも一舛已下の試植種子ハ時付前たりとも請求に應する事あるへし其種代に限り郵便切手代用相成差支無し

因に曰く播種する期節ハ其地にて通常大根を播種する凡三日前とす整地ハ能く鋤耕し土を細かにして幅貳尺の畦を作り壹畝歩に三百五十計りを步して其足跡の中央に棒端を以て小穴を穿ち之に魚粕又ハ油滓を壹撮み施し原肥となして其兩傍に種子拾二三粒計りを播き粒土をきせ日光の射照及び暴雨の打損を防く爲め藁或ハ粟黍等の稈を以て蓋となし發芽するを俟て日暮に蓋を取る稍生長し未だ新葉の生せさる前に陳く五本に拔立て根邊に粉土を搔き寄せ傍を堀り肥培し新葉二三枚を生しさるとき二本になし又小指ひの太とさになりさるとき壹本に引分ケさきば成長よろしからそ肥料は絞粕糞尿共少しく根を距て早肥に施そへし肥培の爲に青黴（カビ）を發しさるときハ「コヤメ」蟲（方言）を生し易きもれなれば速に青黴（カビ）を除き去るを良とす又「コヽメ」蟲等の生しさるときは朝露の未ざ乾かざるとき藁灰又ハ粉土を撒布すへし○大根成熟の景況御報知アレハ幸甚

明治十五年七月

愛知縣尾張國西春日井郡
鍛冶ヶ一色村二十五番地
宮重組長　井上久三郎

同郡下小田井村五百三十一番地
種子取次所　矢橋吉右衛門

鰹節品々
玉子類
金米糖製所
和漢砂糖
府下王子村
愛知屋

愛知郡
御[illegible]風鵬
師崎港
山本屋製

知多郡
半田町
小栗藤次郎
販売所

銘菓名盒
産山口
宮通
せ
ら

證
第 九月九日 壱番九積入り
一 [illegible]
園田[illegible]
田中芳男殿江
一金 八拾弐
右運賃 壱個ニ付
一金
同
一金 [illegible]
右荷積 [illegible] 料
一金 五拾弐
合金 九拾五銭
右賃金請取申候也
十六年九月十[illegible]日
宮川徳三郎

御箸

御用塗師 若州 荒木

[illegible]
[illegible]
田中芳男殿

東京神田区[illegible]
大日本教育会
假事務所

綴暦本年ハ求神宮より直ニ御配達ニ相成一切賣物ニ無之ニ付拙家ニ於ても出來不申候間此段御斷り申上候也

積書用紙

記

一金	壹円六拾八銭 中壹銭 [illegible] 百五十枚 [illegible]
一金	
一金	
一金	
一金	
計	

明治十六年十二月十日

大日本農會印刷場

田中芳男殿

執事御中

拜啓陳者本會報告之儀編輯主任者中病氣等ノ事故ヲ以テ第拾八號以來御送附方遲延相成居候處頃日ニ至リ漸ク取纒メ拾八拾九兩號ハ既ニ御配付致置候得ハ最早御落掌之事ト存候尙ホ廿廿一兩號卽チ本年刊行スヘキ分モ印刷出來ニ付御配付ノ手筈ニ候處一昨廿五日ヲ以テ突然東京府廳ヨリ左之通被相達生憎歲末餘日モ無之折柄其筋ヘ經願之運等捗取難ク實ニ不堪遺憾候得共來春ヲ以テ更ニ允准ヲ得陸續御送附スヘキ事ニ決定致候間左樣御承領被下度此段不取敢御斷申述置候也但本會組織等ニ別段變更ナキハ申迄モナク報告体裁向ニ於テモ先以從前通ト存候ニ付是亦申添候也

明治十六年十二月廿七日　大日本水產會

第二五三〇七号　麴町區內山下町一丁目一番地　大日本水產會

其會出版ノ大日本水產會報告ハ自今新聞紙條例ニ據リ更ニ出願ノ手續ヲ經發行可致尤預テ屆出タル冊數ノ內未刻ノ分ハ出版不相成旨內務卿ヨリ被相達候條此旨可相心得候事

明治十六年十二月廿五日　東京府知事　芳川顯正　印

得能良介病氣之處養生不相叶昨廿七日午後十一時五十分死去來ル三十日午後一時出棺青山墓地ヘ葬送ス此段爲御知申上候也

十二月廿八日

親戚　大久保利和

第一一九號

記

一金壹円六拾八銭　端書拾五枚 [illegible]

右正ニ領收候也

明治十六年十二月十一日

大日本農會印刷場長　古井底　謙

田中芳男殿

第[illegible]號

領収證

金 [illegible]

[illegible]

右金員正ニ領収仕候也

明治十六年十二月十二日

千住製絨所販賣所
支配人 [illegible]

田中殿

第[illegible]號

領収證

金 [illegible]

[illegible]

右金員正ニ領収仕候也

明治十六年十二月十二日

千住製絨所販賣所
支配人 [illegible]

田中殿

報告料受取之證

一 報告料 [illegible]

十六年十二月十[illegible]日 [illegible]

田中芳男様

代価領収日[illegible]

證

一 金 [illegible]

[illegible]

右確收候也

明治十六年十二月 日

東京藥研堀町
報知社

田中芳男様

證

一

右正ニ奉請取候也

年　月　日

東京銀座壹丁目一番地

日就社

靜岡縣下遠江國引佐郡奥山村臨濟宗深奥山方廣萬壽禪寺ハ後醍醐帝皇子　無文元選禪師開祖ノ道場五百年來山深フシテ勝富メリ誠ニ東海ノ名刹ナリ只恨ラクハ其地幽僻ナルヲ以テ遊人ノ唱詠甚タ寡シ客歳十月護法半僧坊ノ開扉盛大ナルモ便是レ禪師ノ道德天下ニ溢ル丶所以ナリ故ニ法乳恩波萬分一ヲ酬ンカ爲メ廣ク奥山吟詠ヲ募輯セント要ス則チ從來ノ十聖境二十景ヲ補掲ス伏乞有志ノ諸君コノ廿題中ニ就テ二三ノ金玉ヲ推敲シ三月上旬ヲ限リ編者エ投寄セラレンコヲ

十景

白崖峯　石崖重沓行徑ノ右ニ在リ卽入寺ノ初境トナス

虎豹巖　岩石突起溪水ノ上ニ枕ス虎豹ノ蹲ルカ如シ山門ノ前ヘ左ノ傍ニ在リ

半腸石　溪流ニ伏シテ形似名ヲ取ル山門ノ北ニアリ

抱腹巖　大石岩々トメ路ニ臨ム羊腸石ノ北ニ在リ五百ノ應眞ヲ安ス

貝葉溪　溪一板橋ヲ架メ以前崖ニ通ス崖上ニ四十餘ノ尊者ヲ安ス各四威儀ノ態アリ最モ雅觀トナス

游龍窟　劖鑿洞ヲ爲ス石橋アツテ磵ニ跨ル廣サ尺ニ盈タス長サ二丈ニ可ナリ瀑布崖上ヨリ落テ流レ橋下ニ過ク

龍偃杉　椎河神閟宮ノ下大杉樹アリ其ノ根輪囷盤礴恰カモ龍ノ偃カ如シ俗ニ大蛇杉ト云

玄聖關　大殿ノ正面ニ直ル磴級初歩ノ處蓋シ天台ノ賦ニ本テ以名ヲ立ル者ナリ

靈仙洞　玄聖關ノ西ニアリ椎河龍王社前深溪ノ水音不斷ノ境ナリ

龜背橋　二帶ノ澗水山麓ヲメクル盤石ヲ以テ之ニ架ス其ノ形龜ノ如シ

吟詠十題

赤城古梅　庭前ノ老幹春ニ乘テ仰山古梅ノ清香ヲ引ク赤城ハ天台山ニアリ本山ノ台嶺ニ髣髴タル開祖既ニ之ヲイフ

歸休杖櫃　開祖宋ヨリ歸朝ノ時柱杖ヲ倒ニ地ニ植ツト云而メ自然芽出葉長ス今開山堂外溪水ノ西ニ在ル老櫃是ナリ

石橋羅漢　游龍窟ノ磵上ニ存ス三躰ノ應眞アリ幽邃鬱律人ヲシテ天台ノ勝概ヲ想像セシム

金山妖石　山門外ニ大石アリ之ヲ化石ト云往昔夜路上ニ牛出ツ曉來コレヲ見レハ卽此石ナリ金山堂ノ南ニ位ス

姥懐老櫻　境內惣稱メ姥ノ懐ト云庭中櫻樹花簇々何時カ吉野一枝ノ春ヲ移ス開祖實ニ南朝ノ皇子

椎河瀑布　龍王社前ノ飛泉ナリ靈仙洞トイフ世埃一點離朱モ看ルアタハス

半僧巨杉　往古ヨリ神木ト名ク山中第一ノ古木ナリ周圍二丈餘

龜背辨天　山門外ニ在リ弁才天池ニ臨ム池景全ク金鼇ニ摸メ構フ老柳水面ヲ蔽フ

羽客憩松　多寶塔下ニアリ松樹ニ奇枝アリ之ヲ守護神腰掛ノ松ト云

南朝帝墳　南帝ノ靈ヲ奉祀シ塔級ノ上ニ位ス開祖ノ古墓默靈塔ト号シテ今　朝廷ノ禁榜ヲ賜フ

附錄

遊方廣寺　咸半僧坊靈驗

遠江國引佐郡奥山村　臥雲院

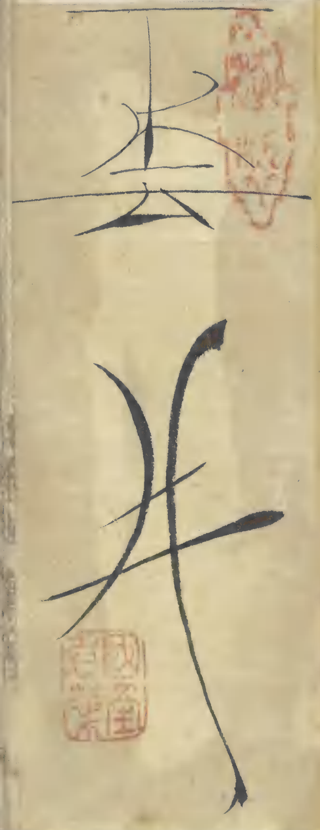
玉吟投寄所

同　國濱松宿旅籠町　開明堂

明治十二年一月日

奥嶠

編者　松久芥舟謹識



◯第五回農産（柑橘及蔬菜）品評會廣告

右來る十二月七八九の三日間京橋區木挽町貳丁目拾四番地本會々堂（銀座四丁目大時計のある角より東へ凡り貳町許）に於て開設し公衆の來觀を許す追て第二十八回小集會ハ八日午後第一時同所に於て相開宿題は左の通に候事

宿題　柑橘諸件

明治十六年十一月

大日本農會

記

一金

右之通り正ニ奉請取候也

十二月

上野公園

八百膳

御料理

上

秋田産

製造人

第百廿三号

初霜昆布

秋田縣羽後國南秋田郡土崎湊新城町七番地

青﨑萬之助

東京神田三河町 明煙社 鈴木製

品銘 君の

日本人

綿共進會出品委托引受所

證

一金三圓

右正ニ受取候也

明治十七年十二月　日

東京神田三河町壹丁目壹番地
依田伊勢勝組合靴場支店
田中

一地方ニテ組合五部以上ヲ豫約セル方ハ代價ノ内五分ヲ割引スベシ　但シ割引ハ出版本部ニ限ル可シ
一豫約外賣價ハ總テ前記ノ五割増タルベシ
一郵便切手十錢御送付アレハ各見本三葉ヲ直ニ呈スベシ

夫レ植物ノ學タルヤ大ナリ農學醫學製藥學工學山村造舟學等ニ至ルマデ一トシテ此レニ依ラザルモノアラサルナリ蓋シ其學ニ於ルヤ必ズ先ヅ鮮明ナル圖畫アツテカ始メテ入リ易シトス而レ圧圖畫其眞ヲ寫シ以テ解說ノ宜シキヲ得ザルトキハ則チ反テ誤謬ヲ[illegible]世ニ存スル[illegible]リ是ニ於テカ古今圖説ノ書セルモノ甚タ稀ナリ然リ其世ニ行ハル、モノ本草圖譜草木圖説其他僅カニ一二ニ過ギサルナリ然リト雖モ既ニ星霜五六十年ノ久ヲ經テ[illegible]

出版本局　東京芝區下[illegible]町拾五番地　養喜園出版部
取次所　東京京橋區南傳馬町貳丁目拾三番地　書肆　穴山篤太郎
取次所　東京日本橋區南鍋町[illegible]丁目[illegible]番地　鳳文館
取次所　大阪東區備後町一丁目拾九番地　鳳文館支鋪

一日本植物圖譜　全部百二十巻合本六十冊

品川農商省大輔題字　浅田宗伯大醫序文　中野其明畫
松本軍醫總監序文　伊藤大學教授校正　飯沼[illegible]亀畫
矢田部大學教授序文　藤城[illegible]編輯　大久保一岳畫

上等美濃紙厚本綴

豫約正價

半墨摺（但シ圖ニテ[illegible]所ヘ着色ヲナス）　一部金四十八圓　一ケ月金八十錢出金
着色ノ分　一部金九十三圓（一ケ月金一圓五十五錢出金）
極上等着色ノ分　一部金百五十圓（一ケ月金二圓五十錢出金）

豫約方法

一本書出版ニ付豫約購求セラル、諸君ハ其書ヲ記シタル書面（當部ニ定紙アリ）ニ住所御姓名ヲ楷書ニテ詳記捺印シ前記ノ豫約前金ヲ添ヘ十二月三十日締ニ下名ヘ御送致アルベシ
一締約金御送附ノ後第一回出版ノ報ヲ得タル時ハ直ニ第二回分ノ送金アルベシ然ラザレバ前回ノ送本ヲ留置クベシ又郵便切手ヲ以テ金圓代用ハ本價ニ割増ニテ御送致アルベシ
一本書ノ逓送ハ東京府内ハ當部ニテ之ヲ辨ジ府外及各國ハ[illegible]諸君ノ自辨タルベシ故ニ府外及各國諸彦ハ豫約金ニ併セテ遞送賃ヲモ御送致アルベシ若シ遞送賃御送致無之分ハ運賃到着ニテ[illegible]スベシ
一全國諸彦ノ内締合ニ寄リ全金額ヲ最初ニ送入ラル、トキハ全金ノ五分ヲ割引スベシ
一府外各國ノ諸彦ノ送金ハ郵便爲換ハ手近郵便支局ヘ其他ハ通運便ヲ以テ御送致アルベシ
一東京諸彦ニシテ豫約書[illegible]一覧ヲ望ム諸君ハ弊局本部ヘ御來臨アレハ高覽ニ供スヘシ
一本書ニ關スル御信書等ハ弊局本部ヘ御[illegible]アルベシ
一豫約價御拂込ハ[illegible]ト雖モ取次所ヘ御拂込ノ分ハ其店主ノ責任タルベシ
一全部落成ノ内萬一[illegible]等ヨリ本書不着ノコアルモ弊局一切其責ニ任ゼズ
一前記ノ如ク規則相立候得共全部御求方至急ヲ望マル、諸君ハ割約ヲ以テ一時ニ年半ニ送本スルヲ得ベシ但シ代價モ從テ前金ヲ要スベシ

東京麴町區飯田町三丁目十九番地 金玉出版社印行

寫本 本草圖譜豫約規則

故岩崎灌園著　藤城重義校正

增補 本草圖譜

全部九十二巻合本五十冊

上等美濃紙唐本綴

豫約正價　上等着色一部金八拾四圓（一ヶ月金三圓五拾錢宛前金）

右ハ有名ナル故岩崎氏ノ編輯セラレタルモノナレ圧植物圖譜申込ノ序ヲ以テ御照會ノ人不少候ニ付此ニ誤謬ヲ正シ着色ヲ改良シ羅句語ヲ加ヘ非常ノ廉價ヲ以テ眞寫シ同好ニ分タントス○規則ハ總テ植物圖譜ニ同シ○豫約外ハ發賣セズ○元本一覽ハ本部ニ御来車アレ○見本ハ六錢ノ郵券御送附アレ○豫約申込ハ一月十日限リ○最初製本發送二月廿八日タルベシ

類別冊數ハ芳艸類四冊○山草類四冊○濕草類八冊○毒草類四冊○蔓草類八冊○水草類二冊○石艸類二冊○同苔部二冊○雜艸類壹冊○穀類五冊○菜類葷菜部三冊○同柔滑部四冊○同蓏菜部二冊○同水菜部壹冊○同芝栭部六冊○果類五果部二冊○同山果部四冊○同夷果部五冊○同水果部五冊○香木類五冊○喬木類五冊○灌木類六冊○寓木類壹冊○苞木類壹冊○雜木類二冊合計九十二冊

東京牛込區下宮比町十五番地

養喜園出版部

送状

一　フラソコ徳リ三本入　壹箇

右之通正ニ御預リ申候

東京内山下町

博物局天産課

田中芳男様

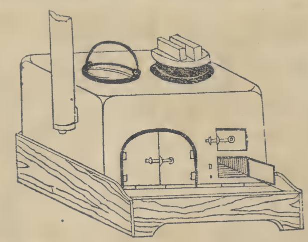
百花細工報告

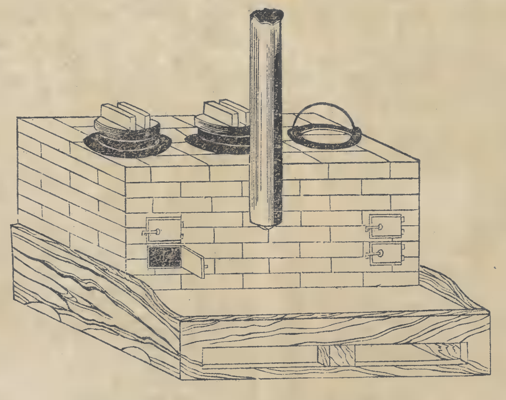
草木精心なしといへど。四時の季を違へずして。正に花咲き葉を結べバ精心有る事疑ひなし。去れバ年頃培養の道に精心凝しゝ主人が丹誠感じてや。彼三千歳の壽を保つ。桃花の精の西王母牡丹に王の名を忍ぶ殿の居れ九尾の妲妃照魔鏡より靈驗の輝く魚籃の觀世音其縁日の十七文字。釣瓶とられし千代女の朝顔又夕顔の花白く照らふ月の薄原に保昌覗ふ袴垂笛に心耳も墨染の珠數の玉かも白露の清き蓮の中将姫詞の花の象紛。草紙洗ひの墨塗ハ画巻を寫せし六歌仙百花の芳魂錦繍の粧ひなして現出せし。容ハ活るが如くにて。趣向に雅有俗ありて令婦君や愛兒君方の御慰好時候覺も霞も花の雲金龍山の開扉の魁一時に開きし百花の細工園中種々の盆栽と共に諸君の御高覧を八重に一重に願ふになん

主人に代りて　河竹其水記

淺草公園地花屋鋪

植木屋六三郎





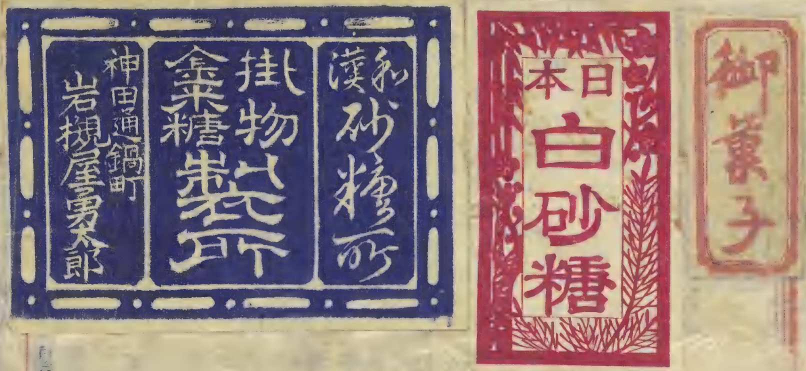
改良竈築造廣告

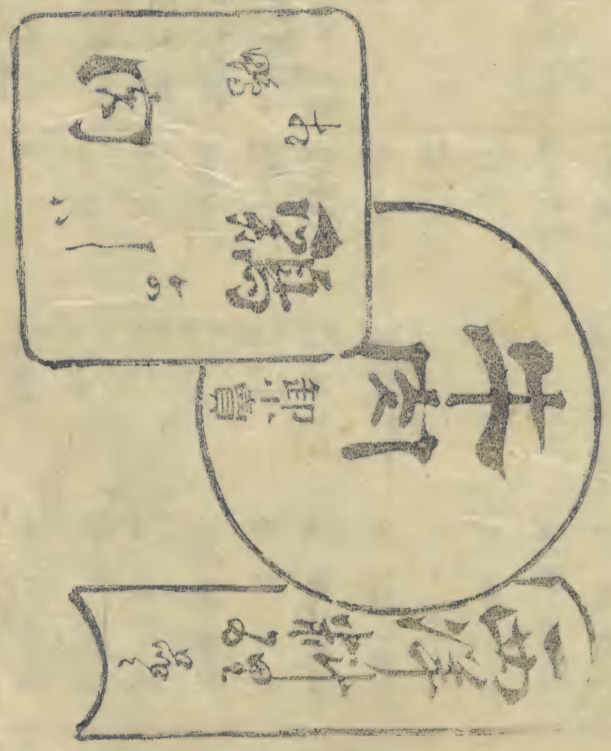
宇都宮三郎先生カ本邦竈爐ノ製其宜キヲ得サルカ爲薪材ノ徒費多キヲ憂ヒ築竈ノ法ヲ研究講明セラルヽヿ茲ニ年アリ其法タルヤ物理學ノ定則ト先生カ多年ノ經驗トニ依テ考定サレタル者ニシテ頗ル薪材ヲ減省スル而已ナラス煮炊ノ時間ヲ疾速ナラシメ且燃火ニ便ニシテ屋内ヲ燻ルヿナク實ニ間然スル所ナキノ良法ナリ既ニ諸縣ニ於テ先生ノ訓示ニ從ヒ竈ヲ改築セシ者頻々トシテ之アリ其管廳勸業課ノ報告スル所ヲ見ルニ薪材ヲ減省スルヿ概子五割以上ニ居ル就中減少最モ甚シキハ從前ニ百貫目ヲ要セシモノ今ハ僅ニ五十貫目ニテ足ルニ至レルアリト竈ノ制其宜キヲ得ルト得サルトニ依テ其損益ノ差異斯ノ如ク大ナルトハ實ニ驚歎ニ餘アリ然リ而シテ毎家尋常日々消費スル所ノ薪料ニ於テハ其損益些細ナルカ如シト雖モ之ヲ月ニ積ミ年ニ疊ヌレハ巨大ノ損益トナルハ贅言ヲ俟タザルナリ本舍精シク其築造法ヲ先生ニ受ケタレハ廣ク江湖ノ御依頼ニ應シ庖厨用ノ小竈ニ限ラス風呂釜及ヒ諸製造ニ用フル大竈等煉化石ニテモ石ニテモ凡テ精々廉價ニ築造仕ベク候且ツ遠方ト雖モ相當ノ旅費日當ヲ御出シ下サラハ築竈指圖人ヲ出張致サセベク候間續々御用向被仰付度奉希候敬白

明治十六年八月

東京京橋區銀座三丁目川岸

竈改良舍





火を焚く心得の事

此改良竈は焚物の入らぬと實に驚く程あるは既に此竈を用ふる諸君の知る所なれども焚物に損失あるは大に焚方の良否に關すれば若し焚方不注意なれば竈の制如何に善良なるも其功能を見ること能ざるべきなればば聊か左に焚方の心得を陳ん○此竈に火を焚には先づ風口を開き焚口より薪を入れて火を焚付け燃付たる後は焚口を閉ぢべし蓋し此竈は釜の大小に從て焚物の分量に定りあるが故に無暗に過量の薪を押込めば燃へ方遅きのみならず火勢却て弱く焚物に損あるものなれば豫て其分量を知り置くを要す 其分量は竈造り節々申上べしと雖も一例を擧れば本二升炊の釜には一時間に焚くべき薪の量大凡六百目なりとするが故に此六百目を一時間に割振り不同なく焚くを法とす去れば之れを二十回に焚んとせば右の六百目を二十に分け其一分即ち三十目づゝを三分時間毎に焚き三十回に焚んとせば三十に分け即ち二十目づゝを二分時間毎に焚くべき譯なり一度に澤山づゝを焚くよりは少々づゝ度々に焚くを宜しとす然しも餘り少々づゝを焚くも煩はしければ先づ三分時間位づゝを隔てゝ焚入るゝを最も適當とす 而して薪は鐵格の上滿面に不同なく布く樣注意すべし從前の如く薪を透し積重ぬるに及ばず 又薪を焚入るゝに當り焚口を開く時は冷氣之より入りて大に火勢を弱むるものなれば薪を入るゝの時は成たけ手早く蓋をなする事肝要なり 薪は堅木より松の方價も安く燃へ易ければ得用なり且つ細き程よろしきの故に成丈け細に割るを要す通常の松薪ならば二ツ切にしてそれを四ツ割若くは五ツ割にすべし太くも六分角位を限りとすべし斯く細かに薪を焚くは不便に感ぜらるべしと雖御出入の薪屋へ御申付け一圓代に大凡十錢内外の割賃を御拂になれば充分細く割り差出べし本舎にても諸君の御便利の爲め此竈用の薪を販賣せんと目下頻りに計畫中なり 飯を炊く事は二三日も御馴れになれば本舎にて教を受くべき程にあるべしと雖とも先づ注意すべきは米を入れ少しく煮立たる後は薪を焚き足す事なく既に水の切れる頃には燃殘りの薪なき樣見計ひて焚付けは飯に火を播出すにも及ばず只焚風の兩口を閉ち猶永く蒸し置けば飯にこんある事なく又決して焦付く樣の事もなし從前の竈と違ひ鍋の吹こぼれる事なければ飯の味も一層甘美なりと賞讃せられし人もありき京橋區南鍋町交詢社にて出版の焚竈論には右等は事而已ならず焚竈の道理をも詳に記載あれば篤志の諸君は就て閲覽し玉へ

上野広小路
八丁堀
田中貴写

宇田屋

新形 池之端仲町

㊂ 足袋元〆所

手拭 宇田屋友吉

世間

源氏香油 びんつけ油

松葉香油 新吉原

無類

夢相御伽羅之油

浅草駒形堂前西側

中島屋百助

券

番地 丁目 町

(本)

湯島天神町三丁目

莫大小類

西洋小間物

品々

仲町通南側

豊稼軒

証

一金三両二朱四匁 水薬 五十二日分
一〃壱両四朱四匁 小児水薬 三十二日分
一〃朱四匁 〃剤 六貼
一〃朱四匁 右薬 七貼
一〃二朱 粉薬 三貼
一〃朱八匁 丸薬 二服
一〃三朱四匁 膏薬 十貝
一〃朱四匁 膏薬 三貝
一〃三朱四匁 膏薬 三曲
一〃朱四匁 防腐銀液 一瓶
一〃二朱 防腐銀棒 一箇

〆金六両三朱四匁

右之通り
十二月廿四日

鶯溪医院

田中様

証

一金七両 診察料
一〃六両三朱二匁 薬價
一〃壱両 門人礼

右正ニ領收仕候也

十二月十二日

上野櫻木町壱番地
鶯溪醫院

田中様

著譯編纂廣告

今般二三ノ同志相謀リ著譯編纂ノ業ヲ開キ學科數理工藝製造新紙書信等日限ヲ期シ廉價ヲ以テ飜譯編纂御引受可致ニ付官私共陸續御依頼被下度候尚畫圖板下寫字是亦廉價ニ御引受可申候

追テ御依頼被下候向ハ御報知次第参上可仕候也

神田區小川町三番地
著譯編纂所 丕休堂

口演

各様益御清栄奉大賀候
然ハ私儀今般下駄商
開店仕り精々下直ニ差上
候間何卒御来店御贔屓之
程偏ニ奉願上候
以上

下谷池之端仲町廿八番地
傘下駄營業
まつや為治郎

故岸良兼養
五十日祭付 進呈

岸良俊介

拜啓陳者来ル十三日鹿鳴館ニ於テ夜會相催候間同日午後第八時半ヨリ同館ヘ御来臨被成下度致希望候

敬具

但小禮服

明治十六年十二月三日

大山巖

同 妻

田中芳男殿

同令夫人

田中芳男殿

第四回觀古美術會

特別入覽札

定價金[illegible]錢

田中元老院議官

[illegible]

佐野執事

書翰小枕附音抄

商保筆叢御家流

上

東京濱町
長岡久左衛門

東京濱町
長岡久左衛門

筑前博多織

明治十六年略暦

仙臺國分町
諸國御茶所
菅野屋喜兵衛

小町紅

極製
三伊血子出
京橋區竹川町
二十一番地
半月堂

讀賣新聞 第二千六百七十二號附錄 明治十六年十二月十五日

○昨夜十二時二十分ごろ日本橋區新乗物町十三番地の前川茂助方より火事が始り十戸程燒失して一時十五分頃鎮火しより尚は委しくハ次號へ記載をべし

持主兼編輯人 居林誠孝
印刷人 吉眞義常
發行所 日就社

紅白粉製所
東京須田町
長岡久左衛門

別編

雁皮紙

聚玉堂

東京日本橋 榛原精選記

元祖

東京須田町
長岡久左衛門

宇治諸國 銘茶 一斤ニ付

青柳		金拾銭
初櫻	同	金拾三銭
正喜撰	同	金拾六銭
宇治の花	同	金貳拾五銭
松の濤	同	金三拾三銭
老の友	同	金四拾銭
大平樂	同	金四拾五銭
千代の壽	同	金五拾銭
初摘揃	同	金六拾五銭
老樂	同	金七拾五銭
露光	同	金八拾五銭
樂山園	同	金壹圓
鳳玉	同	金壹圓五拾銭
老松	同	金貳圓
鳴鶴	同	金三圓
龜齡	同	金五圓

粉茶

玉露粉	一斤ニ付	金五拾銭
最上粉	同	金貳拾五銭
上粉	同	金拾六銭
喜撰粉	同	金拾銭

濃茶園

上別儀摘	一斤ニ付	金三圓
極昔	同	金貳圓五拾銭

薄茶園

別儀摘	一斤ニ付	金貳圓
極摘	同	金壹圓五十銭
後昔	同	金壹圓

一切手御入用ノ節ハ御注文次第差上可申候
一御進物等御入用候得者ヾリキ箇入等御好次第仕立差上可申候
煎茶濃茶薄茶尸精良品相撰差上候間多少ニ限ラズ陸續御注文奉希候

共立商社茶取扱所
京橋區靈岸島銀町壹丁目四番地
山上茶店

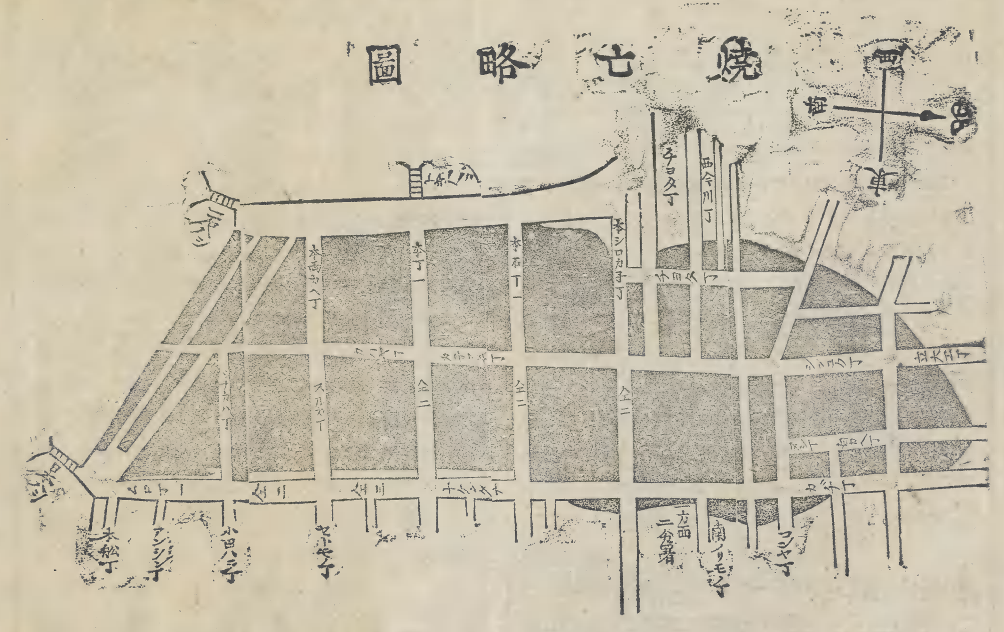
讀賣新…

○兼て諸君が… 件につき昨二… の電報が着せ… 井上外… 王ハ先月二… しに王ハ幸… と待ちしが… 出ぞるの命… 議に及ぶの… 辭去せり其… 事ありき既… り彼方に於… と記載せり… ると以てせ… 金宏集來り… 條約と締約… まゝ今日午前… が着せり

去る卅一日 四時馬關へ[illegible]より

右の喜報を得されバ取敢ぞ附録にして報道し尚詳細の儀ハ聞込次第報道を怠らざるべし

東京京橋區銀座壹丁目一番地 日就社



共立

竈鳴老鳳樂露光初千大老松宇正初青
山　舗代平のの浮壹

讀賣新聞號外附錄

十二月三十一日

明治十三年十二月三十日大火の略報

昨三十日午前九時十五分神田鍛冶町裏新道（俗に下駄新道といふ）一番地の鼻緒屋川村屋虎吉の物置にて下駄職八長次郎が焚火せし火と誤ち傍らに有りし鉋屑に燃え移りしと消さんとそる折しも西北の風烈しく瞬く間に床下ゟ隣りへ移り鍛冶町の表通りへ燃え出し後ハ塗師町へ出で前ハ西福田町へ移り前後一時に擴がりて神田區ハ鍛冶町百三十九軒、上白壁町百四軒、塗師町百五軒、西今川町五十二軒、新石町百六十軒、千代田町百五十九軒、西福田町十五軒、南乘物町廿一軒まさ日本橋區ハ本銀町一丁目二百軒、同二丁目二百八十七軒、同三丁目三十二軒、本石町一丁目四百六十五軒、同二丁目百十七軒、本町一丁目百八十七軒、同二丁目二百五十五軒、本革屋町六十二軒、金吹町三十八軒、本兩替町百二十三軒、北鞘町百二十軒、品川町百十軒、同裏河岸六十九軒、駿河町八十七軒燒け日本橋北河岸と界ひにして午後一時過ぎ漸やく鎭火しさり

是について松田府知事にハ午後二時より神田區役所へ出張ありて救恤の事に力と盡されまづ取敢ぞ神田區ハ關口町の神田學校、東松下町の櫻池學校日本橋區ハ小傳馬町の十思學校馬喰町三丁目の千代田學校と以て類燒人の立退場と定めらさり 燃え出しさ頃ハ西北の風烈しきも忽ち此勢ひにて押さへ茅場町より八丁堀邊へ押出さやも知ざりしが中頃より眞北と變り日本橋と越さして終しハ不幸中の幸ひありし僅一日と隔て、新年と愛度迎へんと其支度とりとりなる中にて此災ひに罹りさるあれバ其慘狀ハいふばかりなく三井銀行ハ危ふく此災ひと遁れ今川橋の分署ハ消防よく屈しも燒殘りさるに引かへ同所の呉服店松屋ハ奥藏店藏とも荷物と詰め込み目塗り等も手落ちなくせしが何處よりか火が入て跡もなく燒け失たりまた一石橋の河岸に繫ぎし船ハ逃げんとそれど干汐にて船ハ動かざ陸とともに災ひと蒙りしハ氣の毒ありし神田日本橋兩區にて燒失の家ハ半燒とも凡そ三千軒怪我人も數多あり又慈善の人々より難澁人へ施與金も多くありしど詳細の事ハ來る一月四日の初配りを待て記すべし

本局　東京銀座一丁目一番地　日就社
社長　子安峻
編輯長　永井錄
印刷長　高島藍泉

讀賣新聞附錄

第貳千貳百八十八號　明治十五年九月三日

○兼て諸君が談判の樣子如何にと待ち設けらるゝ朝鮮事件につき昨二日午後九時馬關發同十時三十分外務省へ左の電報が着せり

井上外務卿宛　中山と經て花房

王ハ先月二十日謁見と與へたり拙者ハ要求の書と呈せしに王ハ宰相に本事件と委任そると云へり三日間回答と待ちしが其翌日宰相ハ書柬と贈り彼ハ新に王より他出そるの命令と得ると云へり事件大いに等閑に附し協議に及ぶの望更になかりし依て書と國王に贈り京城と辭去せり其の途上一書柬來りたれども只先の書翰の返事ありき既に濟物浦に到着そるに及んで猶更に書柬來り彼方に於てハ出張して事件と協議そると好むの意と記載せり拙者これに回答そるに二日間辭去と猶豫そると以てせり然る處全權委員リウゼン（柳㙐）同副委員金宏集來り談判と開き遂に三十日に於て大滿足にまで條約と締約せり

まさ今日午前二時在馬關の井上毅君より其筋へ左の電報が着せり

去る卅一日午後一時三十分仁川拔錨の迅鯨艦にて二日四時馬關へ歸着と三十日午前條約整ふ委細ハ跡より

右の喜報と得されバ取敢ぞ附錄にして報道し尚詳細の儀ハ聞込次第報道と怠らざるべし

東京京橋區銀座壹丁目一番地　日就社

通運物受取證

届先 宿所 姓名 甲府 [illegible]

届先取調量目 [illegible]

十五ヶ月限り 定式運賃 [illegible]

封印 改濟

前記ノ貨物當社物貨取扱規則御承知ニ付正ニ受取送達可仕候也

明治十一年一月三十日

內國通運會社
室町 出張所

田中芳男様

通運物受取

届先 宿所 姓名 甲府 [illegible]

届先取調量目 [illegible]

十五ヶ月限り 定式運賃 [illegible]

封印 改濟

前記ノ貨物當社物貨取扱規則御承知ニ付正ニ受取送達可仕候也

明治十一年三月八日

內國通運會社
室町 出張所

[illegible]様

明治十一年十二月十日

貨物輸出記

届先姓名

田中芳男様

元價

出貨主

伊勢四日市湊
黒川彦左衛門

運賃濟

官許 大坂府安土町

千金丹

本家 信山信榮堂製

古實蠟燭

數 百挺

正四百目

[illegible]

正 龜屋支店

証

一金拾八銭也

右正ニ受取申候也

一月十五日

本郷四丁目
藤村忠次郎

上

煉羊羹弐棹

本郷四丁目
富士村

証

一 金八 二十五

右正ニ請取申候也

十二月十一日

田中様

大和田

物貫請取之証

明治十六年三月

金壹円

田中様

讀賣新聞代價請取證

記

一金七拾貳錢

參箇月分

右正ニ請取候也

明治十四年四月六日

田中様

東京銀座壹丁目壹番地
日就社

此證書ノ金額ヲ塗抹シ更ニ書直シアルカ又ハ此證書持参セサル者ハ…

授業料領收之證

明治十年 金

一月分	〃
二月分	〃
三月分	〃
四月分	〃
五月分	〃
六月分	〃
七月分	〃
八月分	〃
九月分	〃 [illegible]
十月分	〃 [illegible]
十一月分	〃 [illegible]
十二月分	〃 [illegible]

授業料ハ毎月二十日ヨリ二十四日マテノ間ニ上納スベシ

東京女子師範學校

領收之證

一月分授業料

一金[illegible]錢

田中むつ

明治十二年一月廿六日

東京女子師範學校

領收之證

四月分授業料

一金三拾錢也

田中むつ殿

十四年四月　日

東京女子師範學校

領收之證

二月分授業料

一金拾五錢也

田中むつ殿

十四年二月廿六日

東京女子師範學校

附屬[illegible]學校

通運物受取證

届先 宿所 姓名

届先 取調 量目

十五ヶ月限り 定式 運賃

封印 立會 改濟

前記貨物當社物貨取扱規則御承知ニ付正ニ受取送達可仕候也

明治十年二月廿七日

内國通運會社
室町 出張所

ほと
稼 抜 ぜう
かま焼
玉子焼
出広 中文

夢 擬 天 便 日 發賣
新粧 月 流 風

SUPERIOR LIQUEUR
TOSO-IDZUMI.
東京尾張町壹丁目
清泉堂別製

大
御小間物所
御伽羅の油 紅 白粉 しろい
御はみがき 楊枝 よろい
四伊賀 室町
大黒屋 豊吉

記

一金壹円也

右之通炭代價難有受取申候也

明治十一年一月十八日

東京鐵砲洲本湊町七番地
山 炭 店

田中芳男様

當月錢日之乳代金者来月ニ相廻シ可申候代金印持参者ニ御渡可被下候

[illegible]	一日	四日	七日	十日	十三日	十六日	十九日	廿二日	廿五日	廿八日
[illegible]	二日	五日	八日	十一日	十四日	十七日	廿日	廿三日	廿六日	廿九日
[illegible]	三日	六日	九日	十二日	十五日	十八日	廿一日	廿四日	廿七日	卅日

一 總計 壹升五合
代金 四銭五厘

右乳代金正ニ
七月三十一日

一ツ橋外南神保町壹番地
長養軒

田中様

明治十年大小並ニ大陽暦

一月大	六日	十三日	十八日	廿四日	三十日
二月小	五日	十一日	十七日	廿三日	
三月大	一日	七日	十三日	十九日	廿五日 三十一日
四月小	六日	十二日	十八日	廿四日	三十日
五月大	同六	十二日	十八日	廿四日	三十日
六月小	五日	十一日	十七日	廿三日	廿九日
七月大	同五	十一日	十七日	廿三日	廿九日
八月大	四日	十日	十六日	廿二日	廿八日
九月小	三日	九日	十五日	廿一日	廿七日
十月大	同三	九日	十五日	廿一日	廿七日
十一月小	二日	八日	十四日	廿日	廿六日
十二月大	同二	八日	十四日	廿日	廿六日

八丁堀亀嶋町壱丁目東通壱十番地

積物 酒

酒造

大日本郵便汽船出帆表

向	船名	月日	積切	乘込	出帆
神戸馬關長崎上海向	名古屋丸	十月 七月 三日	月 日午十二時積切	月 三日午后巳時乘込	月 日午后六時出帆
陸前荻濱函館向	新潟丸	七月 一日	月 日午十二時積切	月 日午后巳時乘込	月 一日午后六時出帆
勢州四日市向	田子浦丸	十月 九月 十五日	月 日午十二時積切	月 十五日午后巳時乘込	月 日午后六時出帆
仝	遇益丸（東京ゟ乘込午前八時・乘船賃三円十銭）	十月 七月 十四日	月 日午十二時積切	月 日午后巳時乘込	月 日午后之時出帆
神戸大坂向	兵庫丸	十月 七月 十七日 十六日	月 日午十二時積切	月 十七日午后六時乘込	月 十六日午前巳時出帆
仝	清涌丸（東京ゟ乘込午前八時・乘船賃三円五十銭）	十月 七月 十七日	月 日午十二時積切	月 日午后巳時乘込	月 日午月六時出帆

各港汽船乘客荷物
鐵道荷物運送荷物
取扱所

〈長 東京芝新橋角
川崎屋長治郎

證券界紙

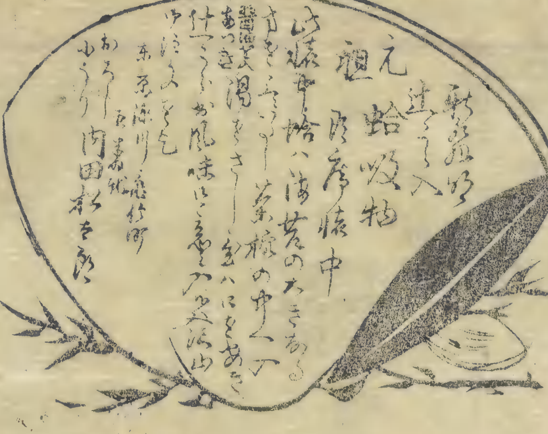
△座入法書

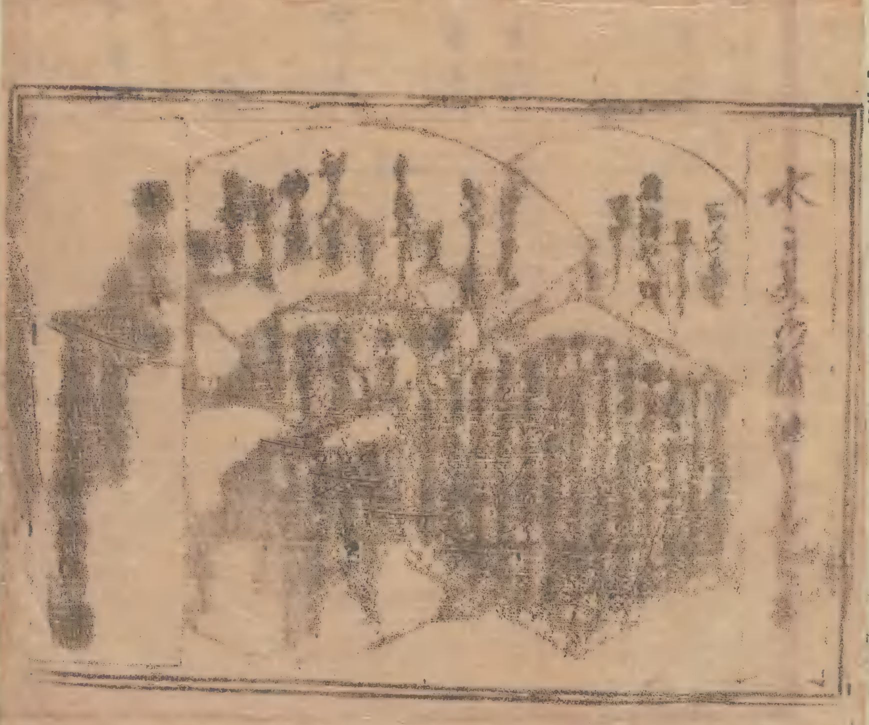
一金三十五円[illegible]

[illegible]

七月[illegible]日

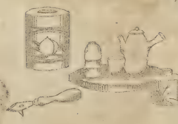
田中[illegible]





功能

桃ハ菓中の佳品にして仙家の珎味とする所なり味ひ甘美にして清涼の功あり故に能く膓胃を調へ通利を促し膽汁の過泄を停む殊に中暑の症によろしく又船中の眩暉に妙なり爰に武藏國埼玉郡大房、大林、増林等の数村より出る桃子ハ殊に肥大にして味ひ最も美なるを近ごろ西洋の法に倣て是を糖製と成し長く鑵内に貯へ以て不時の需に供を殊に船中に携へ或ハ遠地に送るに便なり凡そ人の諸病の中にても大便秘結より起る者ハ頭痛。めまひ耳なり。胸ぼろへ。腹より。等にて何れも下剤を用ゆるを一般の療法なれども屢々瀉藥を用ゆれバ慣習と成りて功を奏せず或ハ腹痛を起するあり若し是等の症ある人々ハ常に食後に於て此糖製の桃子を食し或ハ茶菓子にも是を用ゆれバ藥劑によらずして能き程の微利を催し腹中自から調ひ人をして健康ならしむべし實なる哉昔人の是を以て延齢長壽の靈藥と稱せしこと



明治十年八月

埼玉縣武藏國埼玉郡溝村 放牛舍敬白

埼玉縣醫學校長 坪井爲春閲

賣捌所

埼玉縣下武藏國足立郡浦和宿 上州屋治助
同 同 國大里郡熊谷宿 清水藤右衛門
東京府下神田小柳町 伊勢屋傳次郎
同 銀座二丁目 岸田吟香
同 小傳馬町三丁目 鍋屋甚八
同 本所元町 上總屋嘉右エ門
北海道後志國小樽郡小樽港堀見臺 佐久間半藏
神奈川縣下横濱本町四丁目 森屋善三郎

"SAFETY PETROLEUM,"
HEAVY ILLUMINATING OIL

宇都宮氏發明
東京 准 燈臺寮驗査濟

安全火止メ石油

石炭油ノ世ニ鴻益アルコハ辨ヲ待タス然レ𪜈其害ヲ生スルコ亦大ナリ蓋其益其害ヲ蔽フニ足ラス幸ハ反テ大不幸ト成ル嚢者ニ化學家宇都宮三郎氏之カ爲ニ始テ尋常石油中猛烈ナル氣發分ヲ分析シテ之ヲ去リ以テ「ランプ」ニ點火シ安全無害ナル眞油ヲ發明シタリ名ケテ安全火止メ石油ト云野生之ニ心酔シ宇都宮氏ノ門ニ入其傳習ヲ受ケ頗ル研究ヲ經テ其技術ヲ會得シタリ多年ノ素願忽チ成就シ欣喜ニ堪ス因テ去年六月横濱燈臺寮ニ於テ試驗ヲ願フ處御雇外國人燈臺寮築造方補員ジェームスマクリッチ及チャールソン○ウヲーコップ三氏ノ試驗ヲ經テ凡百八十度迄ハ發火セス家裡ノ需用ニハ充分安全ノ眞油ナリト決定ナシ御試驗濟ノ御証書ヲ拜載ス野生大ニ面目ヲ施セリ是ニ於テ普ク之ヲ海内ニ廣布シ全國ニ石油ノ災害ナカラシメント欲ス然ト雖近キヨリ遠キニ及ヒ小ヲ積ンテ大ニ至ル如ク漸次推及セサレハ充分ニ至ラス因テ今般製造所ヲ設ケ製造始メ祝賀ノ爲一千函ヲ製造セソコヲ庶幾フ附テハ春顧ノ諸君一千名ニ懇願シ各位一函己上ノ御注文ヲ願ヒ之ヲ弊店開業ノ得意トシテ益四方ニ推及ソト欲ス冀クハ江湖ノ諸君一ツハ宇都宮氏發明ノ美事ヲ賞サセラレ次ニ弊店開業ノ素意ヲ洞察アリテ永ク愛顧アランコヲ

火止メ石油ト尋常石油ノ比較畧表

一火止メ石油ハ尋常石油中ノ氣發分三割ヲ減ス故ニ燃燒ノ時間三割長シ○尋常石油十函ト火止メ石油七函ト燃燒ノ時間同一ナリ

火止メ石油定價（時々増減アリ）

一壹函（貳斗入）	金四圓六十錢	一壹升	金貳十五錢
一半函（壹斗入）	金貳圓四十錢	一壹合	金貳錢五厘

一弊店販鬻ノ火止メ石油ハ贋物豫防ノ爲メ箱礶子ヘ地名及姓名ノ烙印或ハ印證ヲ糊ス諸君之ヲ認メ誤ル勿レ

東京第四大區一小區表神保町二番地
辻平兵衛

功能

讀賣新聞

第二千六百七十號附錄
明治十六年十二月十三日

○昨日黜陟のありし由と漏れ聞し儘に本紙へ掲載して既に印刷に附せし處へ官報の號外が配達になりたれバ更に附錄にしてお目に掛ます
參議兼司法卿正四位勳一等大木喬任君ハ司法卿と免ぜられて兼文部卿に參議兼參事院議長議定官陸軍中將正四位勳一等山縣有朋君ハ參事院議長と免ぜられて兼内務卿に參議兼内務卿議定官陸軍中將正四位勳一等山田顯義君ハ内務卿と免ぜられて兼司法卿に參議兼文部卿正四位勳一等福岡孝弟君ハ文部卿と免ぜられて兼參事院議長に任ぜられました

持主兼編輯人　居林誠孝
印刷人　吉貝義常
發行所　日就社

綿絲機械廣告

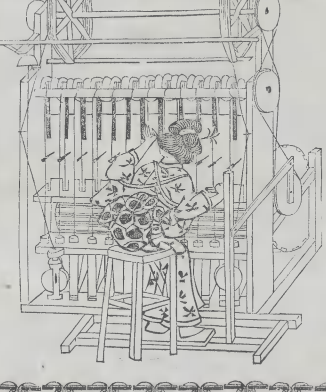
十五口壹人取　價拾六圓
一日糸量百八十目

五十口二人取　價三拾圓
一日糸量六百五十目

燒印　從出賞牌 綿絲機械 臥雲辰致

從前ノ機械ニ比スレハ其改良左ノ如シ

- 一絲口揃ヒ切斷ノ憂ナシ
- 一絲尺倍シ捻方充分ナリ
- 一運轉輕ク卷回ノ勞ナシ
- 一經絲ニ用ヒ織上リ好シ



但從前ノ機械ハ舊材相用ヒ廉價ニ改造スベシ

余カ綿絲機ハ明治十年初メテ内國勸業博覽會ニ出シテ鳳紋賞牌ヲ獲シヨリ摸倣一時ニ遍ク再ヒ改造ノ機ヲ第二回博覽會ニ陳シ進歩ノ賞ヲ受領セリ然ヒ其裝搆猶完全ナラス爾后益工思ヲ凝シ始テ改良ノ功ヲ奏セリ因テ普ク需求ニ應シ世益ヲ弘メント ス唯擬造効用ヲ誤ルモノアルヲ恐ル世人宜ク上ノ燒印ヲ證トシテ辨識スヘシ

發明製造人　東京小石川竹早町八番地　臥雲辰致
取次賣捌所　同湯島天神町二丁目廿九番地　内山留五郎

第三十二號

證

一原價 紙包 [illegible]

右之品封印之儘正ニ受取配達仕候

但原價三圓以上ノ品ハ包紙或ハ屆先名宛ノ附札ヘ品名原價御記載被下度若御書記無之品ハ三圓以下ノ物品トミナシ取計可仕候且不着取調三週間限リ

明治　年十二月廿七日

[illegible]様

京橋區南傳馬町一丁目十八番地
品物配達所

受證

一 [illegible]

十六年十二月廿一日

野村素介

[illegible]

コレラ病を發するとき。醫士の來るまでに。施すべき心得。

第一　暴瀉するときハ。コレラ藥を二十滴或ハ。三十滴。少許の水に和し。十分時。或ハ十五分時。毎に。用ゆべし。（四五歳前後の小兒にハ三滴より五滴まで十歳より十五歳までの者に七滴より十滴をあたふべし）但し。吐又ハ。下痢止むときハ。直ちに。後服を。やむべし。假令ひ。吐下やまずとも。十回以上に。連服すべからず。

第二　手足少しく。冷ゆれバ。温湯にて半身浴。又ハ全身浴を。行ひ。後ハ温りに着て。發汗すべし。

第三　嘔吐はげしくして。藥及び水をとゞまらざるときハ。氷の細片を。頻々與ふべし。

第四　嘔氣。心下苦悶等あるものにハ。胃部又ハ下腹に。芥子泥を。貼すべし。其方。芥子末三握。麪粉一握を。よく混合。酢にて。かたき糊のごとく。練て。六七寸四方ほどの。木綿の切に。のばし。皮膚。紅くなりて。痛を。覺ゆるまで。貼り置べし。（凡そ二三十分[illegible]）

改正符標紙

SÄKERHETS-TÄNDSTICKOR
東京本所柳原町
新燧社製造
Shinsuisha-Tokio-Japan.

敝社製造摺付木之儀ハ已ニ壹ケ年餘ノ實驗ヲ暦ヘ今般合藥法ヲ改正シ原品諸種ヲ精撰シ製造雜科ニ至ル迄悉ク注意シ一層上等之摺付木ヲ製出シ益廉價ニ販賣仕候間請フ江湖ノ諸君彌増シ愛顧ヲ垂レ玉ハンヿヲ且上野博覽會開場中同處賣店ニ於テモ改正ノ摺付木發賣仕候間請フ試ニ多少ヲ論ゼズ御購求アランヿヲ
附言近來敝社小箱ノ符標紙ニ類似ノモノ有之今般諸科改正ノ際別テ紛敷ニ付前記之通改正仕候間併セテ廣告仕候也

明治十年八月

東京本所柳原町壹丁目拾三番地
本社　新燧社

証

一金拾円 [illegible]

右正ニ受取候也

明治十七年一月廿日

東京神田三河町壹丁目壹番地

依田
伊勢勝 組合靴場支店

田中 [illegible] 様

記

一金拾壱円六拾銭

右正ニ受取申候也

明治十六年十二月廿九日

東京銀坐三丁目
一番地

大倉組裁縫支店

田中様

覚

一金拾弐銭

積物
早指南 壱冊

右之通慥ニ請取申候

一月十六日

和泉屋
市兵衛

上

來ル七、八、九ノ三日間京橋區木挽町貳丁目拾四番地本會々堂ニ於テ第五回農產(柑橘及ヒ蔬菜)品評會相開八日午後第一時同所ニ於テ第二十八回小集會相開左記ノ宿題共他農事ニ係ル談話ヲ相催シ候ニ付御參會被下度右御案内申上候以上

宿題　柑橘諸件

明治十六年十二月一日

大日本農會

追テ御參會ノ有無共別段御通知ニ及ヒ不申候

拜啓本月五日第一土曜日小集會日ノ儀新年宴會ニ相當候ニ付更ニ來ル十九日第三土曜日ニ延期シ例ノ通リ同日午后第一時ヨリ木挽町本會々堂ニ於テ開會候間御參會相成度此段御案内申上候也

明治十七年一月三日

大日本山林會

宿題(即當日問題)

一 樅類ノ樹木説
一 廣濶ノ原野ニ新林ヲ仕立ルノ法
一 各種木材伐採後使用ニ適スルノ期及其貯藏法
一 各種苗木寒天ノ保護法

以上

拜啓來ル廿二日午后一時ヨリ麹町區内山下町一丁目壹番地農務局御所轄地内舊博物館跡廣堂ニ於テ例月ノ小集會相開キ水產上ノ談話相催候間御集會被下度此段御披内申上候也

明治十六年十二月十八日

大日本水產會

○宿題　鮭鱒一切ノ事項

魚名論　佐介ノ説　柳　楢悦君
石狩川鮭魚減少ノ源因　内村　鑑三君
東京灣漁業ノ實況　平林九兵衛君
演題未定　水野　正連君

來ル十二日午後第一時京橋區木挽町貳丁目拾四番地本會々堂ニ於テ本會第二十九回小集會相開左記ノ宿題共他農事ニ係ル談話ヲ相催シ候ニ付御參會被下度右御案内申上候以上

宿題　種子精撰法

明治十七年一月九日

大日本農會

追テ御參會ノ有無共別段御通知ニ及ヒ不申候

郵便はがき

上野公園内
櫻岡官舎
田中芳男

配達人
丁目
七十二番地

郵便はがき

田中芳男

同愛社幹事
天野仙輔
芳川俊雄
青木庄太郎
大槻修二
原履信
蓮沼精三
桐淵光齋
高松凌雲

郵便はがき

田中芳男

来ル七、八、九ノ三日間京橋區木挽町貳丁目拾四番地本會々堂ニ於テ第五回農產(柑橘及ヒ蔬菜)品評會相開八日午後第一時同所ニ於テ第二十八回小集會相開左記ノ宿題其他農事ニ係ル談話ヲ相催シ候ニ付御參會被下度右御案內申上候以上

宿題　柑橘諸件

明治十六年十二月一日

大日本農會

追テ御參會ノ有無共別段御通知ニ及ヒ不申候

拜啓本月五日第一土曜日月次小集會日ノ儀新年宴會ニ相當候ニ付更ニ來ル十九日第三土曜日ニ延期シ例ノ通リ同日午后第一時ヨリ木挽町本會々堂ニ於テ開會候間御參會相成度此段御案內申上候也

明治十七年一月三日

大日本山林會

宿題(即當日問題)

一 樅類ノ樹木說
一 廣濶ノ原野ニ新林ヲ仕立ルノ法
一 各種木材伐採後使用ニ適スルノ期及其貯藏法
一 各種苗木寒天ノ保護法

以上

拜啓來ル廿二日午后一時ヨリ麹町區內山下町一丁目壹番地農務局御所轄地內舊博物館跡廣堂ニ於テ例月ノ小集會相開キ水產上ノ談話相催候間御集會被下度此段御按內申上候也

明治十六年十二月十八日

大日本水產會

○宿題　鮭鱒一切ノ事項

魚名論　佐介ノ說　柳　楢悅君
石狩川鮭魚減少ノ源因　內村　鑑三君
東京灣漁業ノ實況　平林　九兵衛君
演題未定　水野　正連君

来ル十二日午後第一時京橋區木挽町貳丁目拾四番地本會々堂ニ於テ本會第二十九回小集會相開左記ノ宿題共他農事ニ係ル談話ヲ相催シ候ニ付御參會被下度右御案內申上候以上

宿題　種子精撰法

明治十七年一月九日

大日本農會

追テ御參會ノ有無共別段御通知ニ及ヒ不申候

上野公園官舎
田中芳男様

郵便はかき

麹町之園町
番地
龍之

上野公園内
櫻岡官舎
田中芳男

上野公園地博物館
田中芳男様

郵便はかき

田中芳男殿

郵便はかき

同愛社幹事
天野仙輔
芳川俊雄
青木庄太郎
大槻修二
原履信
蓮沼精三
桐淵光斎
高松凌雲

來ル十六日(日曜日)本郷區金助町七十二番地へ移轉可致候ニ付此段申進候也

但シ巡査交番所アル辻ヨリ北ヘ貳軒目ナリ

明治十六年十二月十二日

本月廿日両国柳橋柳光亭ニ於テ例ノ舊交會相開候間午後第一時ヨリ御臨席ヲ乞フ

但シ會費金三円御出席ノ有無トモニ來ル十八日マテニ幹事方ヘ御報知有之度候也

幹事　乙骨太郎乙

三月十三日

[illegible]

永田健助

拜啓本社貧民施療益盛大ニ赴キ結社之主旨モ貫徹シ欣喜之至リニ堪ヘス因テ本社ノ規則ニ隨ヒ本月廿五日午後三時ヨリ東兩國中村樓ニ於テ總集會ヲ開キ施療之實况ヲ報道シ尚一層之賛助ヲ仰キ度候間當日御來會被成下度此段御案内申上候也

明治十七年三月十九日

二白幹事幷ニ救療社員ニテ粗末ナル酒肴ノ用意仕置候間御來否トモ二十二日迄ニ日本橋區檜物町十四番地同愛社事務所へ御通知被下度候也

[illegible]

證

一金[illegible]

但[illegible]

右正ニ受取候也

明治十七年一月廿八日

獨逸學協會

田中芳男殿

證　第〇〇〇七四號

一金參円也

但官報第一〇一號ヨリ第二〇〇號ニ至ル一〇〇部代

右正ニ領收候也

明治十七年一月八日

驛遞局發着課官報賣捌掛

逸見知毅

田中芳男殿

漆器蒔繪及室內裝飾木具類等其他製造商店

東京大傳馬三通旅籠町

新井半十郎

All Japanese Varnish, Gold Lecquered works, Wood works, Household adorned Furnitures & other Manufactures Store.

H. Arai.

Odenma 3, Tori Hatagocho, Tokio. Japan.

各色簿記用インキ

一抑此簿記用インキたるや近來追々簿記法行はるゝを殊にインキの輕便なるを以て日に月に盛なるも從前舶來品を以て是とす然りと雖も洋紙に能くして和紙に用ひて染散の患ひあり又皇國製に於て皆精製と雖ども其質免れ難かりしも數年正心勉勵の功空しからず今や光澤潤色舶來品に優り及び和洋漢紙に用ゆるも散染を愁ふるの質なき製法の實を得たり希くは諸君御購求ありて舶來品に優りて精巧善美なるを賞し玉はんことを乞ふ

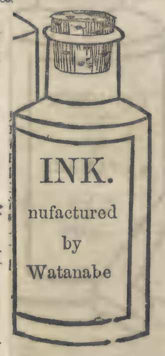
但賣捌取次御望の御方は郵便を以て御報知被下候得ば直ちに割引規則書御送附申上候間御報有之度樣奉願上候

○余力此インキ製法ニ於ル一朝一夕ノ工夫ニ非ス和漢洋三紙ニ點染シテ之ヲ驗ム凡八九年而シテ其日ヲ經ル愈久フシテ光色愈久シキヲ保ツヲ信ス實ニ之ヲ信スルノミナラス需用セラル丶諸君子ノ褒詞ヲ得ルニ皆然リ向後倚ホ愛顧ヲ賜ハヽ幸甚

開盛堂敬白

○簿記用インキ小賣定價左ノ通り

金壹圓十錢	大瓶四合入	最上赤	金拾五錢	三兩入	紫
金九拾錢	同	最上黑	金拾五錢	同	朱
金壹圓	同	上等赤	金拾貳錢	同	横文赤
金七拾錢	同	上等黑	金拾錢	同	同黑
金八拾錢	同	上等青	金拾錢	同	同青
金六拾錢	同	並上赤	金拾錢	貳兩入	上等赤
金四拾錢	同	並赤	金八錢	同	上等黑
金貳拾五錢	同	下等赤	金八錢	同	上等青
金五拾錢	同	上朱	金七錢	同	赤



各色インキ製造本舗 渡邊隆

錢の分(香料○進物)御かきつけ「えどきみて御注文をだされたく四百本より配送仕奏也

御用調進本舗 神田區三河町一丁七番地 鈴木商店

縣下ハ爲換にて代金御送被下候得ば早速御送附仕候也

御料御用調進所 東京神田區三河町一丁目 明煙社 鈴木商店

やに抜製全國無類なり

調進所 明煙社 鈴木商店

賣弘所 同辰の口 第一勸工場出品

第百四十九号

收證

一 [illegible]

明治十七年一月廿九日

外務省

キ製造販賣廣告

金四拾五錢	同	並黒	金六錢、	同	黒
金三拾錢	同	黒	金六錢	同	青
金拾八錢	同	下等黒	金六錢	同	紫
金五拾五錢	同	青	金七錢	ヤグラビン	赤
金六拾錢	同	上紫	金六錢	同	黒
金貳拾五錢	中瓶三兩入	最上赤	金六錢	同	青
金拾八錢	同	最上黒	金六錢	同	紫
金貳拾錢	同	上等赤	金四錢五厘	孫ビン	赤
金拾六錢	同	上等黒	金三錢五厘	同	黒
金拾六錢	同	上等青	金三錢五厘	同	青
金拾六錢	同	赤	金三錢五厘	同	紫
金拾四錢	同	黒	金五十錢	十二兩入	上等赤
金拾四錢	同	青	金四十錢	同入	上等黒青

右之外小賣并詰替金貳錢ヨリ差上可申候間御用被仰付度希望候遠國小賣之儀ハ相當ニ直増賣御勝手ニ御賣捌奉願上候以上

○製造販賣品左ノ通り

硝子製インキ入數品○ペン軸數品○手帳品と○和洋習字本○野引大中小判紙○新發明上等色シャボン入品々○上と封筒類○香水香油○簿記定規○硝子瓶品々○氷ふくろ大安賣仕候

○取次販賣品左ノ通り

賣藥寶丹寶丹水精錡水ビットル其他有名賣藥各種○西洋酒ブドウ酒○ブランデー○ビール○ジン○ローム○セリ○ホートワイン○シャンパン○オルトン○リキウル○ベルモット○和製銘酒オイラン○此君○チソ酒○ミカン酒○萬年酒○龜之年○アハモリ○和合酒○レモン水○ミカン水○ブドウ水○アンズミツ○美泉○ナシミツ○各鑵詰笛麵家氏製松だけ牛肉吾妻羹同倭羹同佃羹○わさび○鹽○鹿○鯛○蠣○鮭○ミルク○カラシ○バタ○ホルト油○レモン油○レモンカン詰○コシャウ○咖啡○ボウザトウ○西洋菓子○菓物類○鑵詰類津田氏製牛肉エキス○和洋小間物各種類○香類○香袋類其他各品共御小賣仕候間諸君御求之程奉願上ひ價ハ他店無類低價にてさし上可申い間多少ニ不限御注文奉願上候

CHOICEST INK
Manufactured by
T. WATANABE.
No. 3 Awajicho nichome Kandaku
TOKIO JAPAN

簿記用インキ製造本店 東京神田區淡路町二丁目三番地 **渡邊隆**

洋物商 同連雀町十八番地 **渡邊洋酒出店**

洋物商インキ 同神保町七番地 **渡利家便利店**

東京々橋新肴町インキ大取次國米活版局印行

○やにぬき紙巻煙草

一 巻方ハ全國類なし
一 一本が他ノ二本と向ふ
一 煙方永く片燃せず
一 味もよし價も廉し

○御諸君他の巻方と違ひ升から「ぬめぞに用ひ被下度煙永く香掛て火の落る事なくキハマデ吸て口中に火や入ることなし」おあえしの上不限多少ニお求を願ふ

御用調進所 神田區三河町一丁目七番地 **鈴木商店**

品銘 **松印** 八分巻

○御進物
一 百本入 桐箱 金二十錢
一 四百本入 同 金六十八錢
一 五百本入 金八十五錢

○御香料
一 百本入 金十七錢
一 五百本入 金八十錢

品銘 **竹印** 上等 八分巻

○御進物
一 百本入 桐箱 金二十三錢
一 四百本入 同 金八十五錢
一 五百本入 金一円〇五錢

○御香料
一 百本入 略箱入 金二十錢
一 五百本入 同 金九十五錢

右御入用の節ハ品銘何本入何錢の分(香料○進物)御かきつけ「そのきみて御注文をだされたく」四百本より配送仕候也

御用調進本舗 神田區三河町一丁目七番地 **鈴木商店**

御用紙巻莨

やにぬき御紙巻莨定價

巻方日本類なし

中ふとき

品銘 やにぬき **君の煙** ○九分巻

○御進物
百本入 金廿二錢
百五十本入 金三十三錢
三百本入 金六十四錢
桐箱入 五百本入 金一円十錢

○御香料
百本入 金廿一錢
略箱入 三百本入 金六十三錢
同 五百本入 金壹円

品銘 やにぬき **瀧の煙** ○九分巻

上等 ○御進物
百本入 金廿六錢
桐箱入 五百本入 金一円廿五錢

○御香料
百本入 金廿五錢
略箱入 五百本入 金一円五錢

ほそまき

品銘 やにぬき **月の煙**

上等 ○御進物
百本入 金廿二錢
二百本入 金四十一錢

○御香料
略箱入 五百本入 金壹円

別製 **御用品**
太巻 百本入 金六十錢
ほそ巻 百本入 金三十錢

右之品ハ日本在來のタダヅメのツメ煙草にあらず能書ハ別紙にあり御價の上御ためし〳〵を願ふ

東京府廳試驗濟

○荒切やに抜煙草 ○一名手巻莨
廿匁入 金十四錢
五十目入 金廿五錢
御進物箱入金十錢ヨリ

右之荒切やにぬき煙草ハ佛國模造にして手巻に用ヒテ良煙ナリ又日本きせるで用ヒテ良品なり常に香んで咽香たんせき等に一切をひらず發明の良煙ゑして日本ゑ類無

右前書の品御入用の節ハはがきまで御香料○進物○御書わけ御注文被下度巻莨ハ物銘何本入何錢の分何箱と御書印多少に不限府下十五區内ハ奉送附候也縣下ハ爲換にて代金御送被下候得ハ早速御送附仕候也

御料 **御用調進所** 東京神田區三河町一丁目 明煙社 **鈴木商店**

やに抜製全國無類なり

鈴木製造

鈴木發明 官許 **やにぬき** 器械製

功能

第一 呑んで煙り方永く片燃せず
第二 常に呑んで體の害とならず
第三 呑掛て吸ぬ時ハ一切立燃せず
第四 巻方ハ私發明の器械製なり
第五 風の爲ゝ一切立燃せず
第六 御口に加ヘても吸ぬ時ハ一切立燃せず葉巻の如くなり
第七 咽舌たんせき等にさゝらず
第八 やに抜製法ハ官の試驗を蒙る
第九 やに抜製造發賣の許可を得る
第十 博覽會ゑ出品左の賞牌を賜る

實ゝ紙巻煙草に〳〵て右の如く功能有ハ全國中に私發明の外他に類なし江湖の御諸君○第一より○第七までの有功を御ためし〳〵の上左所にて發賣仕候間何卒御購求の程希ふ猶世上に御風聽給ば幸甚

製法發明 鈴木勇次郎

調進所 東京神田區三河町一丁目 明煙社 **鈴木商店**

賣弘所 同 辰の口 **第一勸工場出品**

○第五回農產（穀菽類）品評會廣告

右來る二月八、九、十の三日間京橋區木挽町貳丁目拾四番地木會々堂（銀座四丁目大時計のある角より東へ凡そ貳町許）に於て開設し公衆の來觀を許す

追て同三日間毎日午前第九時より午後第三時まで同所に於て第三回大集會を開き引續き同十一日より同所に於て第三回定期會議を開く（本文に付本月々次小集會は休止致し候）此旨會員諸君に廣告を

明治十七年一月

大日本農會

豫て報告第貳拾九號を以て廣告候通來る八日より三日間毎日午前第九時より午後第三時まで京橋區木挽町貳丁目拾四番地木會々堂に於て第三回大集會相開且又報告第三拾號附錄を以て廣告候通同時同所に於て第六回農產（穀菽類）品評會相開候間御參會被下度又引續き同十二日より第三回定期會議相開候間特別會員諸君ハ成るへく御參會被下度右御案内申上候以上

明治十七年二月二日

大日本農會

追て御參會の有無共別段御通知に及ひ不申且又本文に付本月小集會ハ例に據り休止致し候間此段併せて申添候

手船徳豊丸ニ而[illegible]横濱へ差送状

一 [illegible]印 本酒三斗入 壹樽

運賃両賃共拂済

右之通貴君ニ請納可被下候以上

明治拾七年
一月十二日

尾張國
知多郡小鈴谷村
盛田久左衛門

東京本郷金助町五拾番地
田中芳男様
執事御中

手船徳吉丸知多半田積入送状

一 印 本酒三斗入 壱樽

運賃両賃共拂済

右之通貴殿江御請納可被下候以上

明治拾七年

一月十二日

尾張國

知多郡小鈴谷村

盛田久左衛門

東京本郷金助町 [illegible]

田中芳男様

執事御中

○第五（六）回農產（穀菽類）品評會

廣告

右來る二月八、九、十の三日間京橋區木挽町貳丁目拾四番地本會々堂（銀座四丁目大時計のある角より東へ凡そ貳町許）に於て開設し公衆の來觀を許す

追て同三日間毎日午前第九時より午後第三時まで同所に於て第三回大集會を開き引續き同十一日より同所に於て第三回定期會議を開く（本文ニ付本月々次小集會は休止致し候）此旨會員諸君に廣告を

明治十七年一月

大日本農會

て廣告候通來る八日より三日間毎日三時まで京橋區木挽町貳丁目拾四番地於所に於て第六回大集會相開且又報告第三拾號附引續き同十二日より第三回定期會議相成るへく御參會被下度右御案内段御通知に及ひ不申且又本文に付休止致し候間此段併せて申添候

大日本農會

来ル廿
[illegible]
リ通常
案内候

拜啓来ル廿六
御所轄地内舊
話相催候間御
明治十七年一月
明治十六年十

○宿題

演題
石狩川
眞珠ノ
上州榛

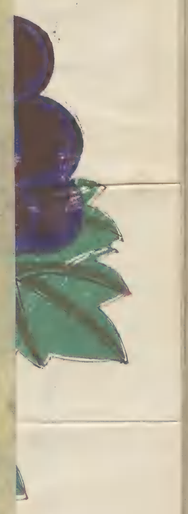
石狄明ノ實驗（續稿）

松原新之助君

[illegible]

パープルダマスカス右ハ昨十五年米國ニ航セシ時得タル種穂ヲ本年四月ニ接木トナシ培養シタルニ二房ヲ結ビタレバ玆ニ其真形ヲ寫シタルモノナリ

内外種苗發賣所
東京谷中清水町
撰種園



内外種苗發賣所
東京谷中清水町

[illegible]

散髮
必用
櫻香油

東京上野東坂町

櫻香本舖　守田重兵衛

来ル廿六日（第四土曜日）例ノ通リ[illegible]ニ於テ午後第一時ヨリ通常[illegible]會相開キ候条此段及御案内候也

[illegible]

林學協會

幹事

拜啓來ル廿六日正午ヨリ麹町區内山下町一丁目壹番地農務局御所轄地内舊博物館跡廣堂ニ於テ例月ノ小集會相開キ水産上ノ談話相催候間御集會被下度此段御案内申上候也

明治十六年十二月十八日

大日本水産會

○宿題　鮭鱒一切ノ事項

演題

石狩川鮭魚減少ノ源因　内村鑑三君

眞珠ノ説　佐々木忠二郎君

上州榛名湖養魚ニ付意見　中村利吉君

石決明ノ實驗（續稿）　松原新之助君

領收證

[illegible]

東京市谷砂土原町二丁目[illegible]

明治廿七年二月[illegible]

田中芳男様

者等は百方之を奬勵し數年前より末廣會社と稱せる

千年泉苔（ちとせのり）

壹包 定價金七錢

千歳泉苔ハ筑ノ前州下座ノ郡彌永ノ村ニ黄金川ト稱スル川アリ至テ細流ナレトモ四時涸ルヽコナシ此川ニ一種無類ノ苔ヲ生スコレヲ川茸ト曰フ此川茸ヲ以テ製スルモノニシテ亦鎮西ノ一珍味ナリ古來紫金苔或ハ壽泉苔ノ名ヲ命シ已ニ舊藩ノ時ニ在テハ年々例トシテ幕府ニ獻セリ故ニ貴人富家ノ賞品トナルヿ既ニ久シ九州地方ノ如キハ殆ント家トシテ貯ヘサルモノナキニ至ル然ルニ舊來ノ製法ハ頗ル手數ヲ要スルヲ以テ隨テ其價モ貴シ是ニ於テ僕年來製造ノ便ヲ得ンヿヲ欲シ苦心焦慮幾多ノ星霜ヲ經明治十六年ノ秋ニ至リテ始テ此法ヲ自得セリ因テ新ニ名ヲ千歳泉苔ト命シ廣ク販賣ス之レヲ舊製ニ比スレハ價甚廉ニシテ風味益佳良殊ニ使用ノ法尤簡便ナルヲ以テ常ニ貯ヘ或ハ珍客ノ突來ニ備エ或ハ名ニ因テ祝宴ノ席ニ供ヘテ妙ナリ加之品質清淨香味風雅ナルヲ以テ高人逸士ノ幽賞トナリ貴人大家肉食ノ后飲客宿醒ノ朝ニ用ヒ皆佳ナリ又白糖ヲ以調理スレハ尤モ茶ニ適ス其品此ノ如ク清淨其味此ノ如ク風雅其製此ノ如ク精良其用此ノ如ク廣シ是ヲ以テ是ノ泉苔一度出テ京阪以西其行ルヽヤ響ノ聲ニ應スルカ如ク貴トナク賤トナク富トナク貧トナク酒客ナリ茶人ナリ賞甘セサルナシ是ニ於テ乎今又廣ク全國ハ無論海外ニ迄及サンヿ欲シ左ノ通リ取次所ヲ設ケ益相働キ調進仕候間四方ノ鳳君多少ニ不限御用被仰付ンヿコレ禱ル

明治十七年一月

製造人 筑前國下座郡久保鳥巷 藤井辰太郎 謹白

賣捌所 東京銀座三丁目 岩谷松平

大極上[illegible]園坊様

横川町

藤屋鐵治

藤

地本錦繪草紙問屋

現
毛引類
半切類
書翰袋

浅草須賀町

金
稽古本
目録包
手帳類

武藏屋藤蔵

[illegible]不服ノ控訴審理ヲ
本訴ハ明治三年十月及
八シ期限ハ共ニ五ヶ年
モ短期ニテハ受戻ニ[illegible]
十五ヶ年期ト約シ明[illegible]
シテ二通ノ証書ヲ彼[illegible]
然ルニ明治六年地租[illegible]
假リニ乙号諸証ノ如[illegible]
前ニテ流地スルノ道[illegible]
シモノト推定セラレ[illegible]
受ノ顛末ヲ審理アラ
本衙ニ於テ戸長ヲモ
在リ
治三四年中論地ヲ質地
ノ十五ヶ年期ニ改約
質買ナルコハ乙第三號
而度改正ノ劵面ヲ後
シ僥倖ヲ企圖スル[illegible]
ヲ難シト云フニ在リ
関スルニ別紙二通[illegible]
モハ遅地スベシ又[illegible]地
トノ旨ニテ明治四[illegible]七
右別紙二通ハ原告[illegible]
ハ前約五ヶ年期[illegible]
モシハ原告ノ知ラ
其他人名受シ得ザルハ
論地ハ地劵改正ノ際都
ノ經過スルモ更ニ異議
經歴上ヨリ觀察ヲ下シ

製ス
ソトシ後装旋條銃一日平均十挺及ヒ砲弾平均十五個ヲ
杭州
杭州ノ造兵局ニ於テハ更ニ歐人ヲ[illegible]
[illegible]

支那モ亦敵國中ノ一ニシテ然カモ一葦水ヲ隔ルノ隣ニ在
ルモノナレバ此隣邦ノ兵備ヲ聞知シテ漠然ノ觀ヲ為ス可
ケンヤ且我國ノ士人ハ動モスレバ支那人ヲ目シテ怯懦ナ
[illegible]
ノ入冦ニ日本刀ヲ以テ十万ノ兵ヲ鏖ニシタリトノ口
レモ其顛末詳ニ知ル可ラズ唯古來我日本人ハ支那人
シタルコアルモ彼レニ屈シタルコナシト云フマデノ事ニ
シテ何モ今日兩國人ノ強弱ヲ斷スルノ標準タル可
[illegible]
シテ且肉ヲ多ク食フ日本人ハ生レツキ薄弱ニシ
弱ク食少ナクシテ牛馬犬羊ノ肉ヲ食フニ宜シカ
[illegible]
期ノ爽ヲ定メ給フ云々

同愛社施療患者表

年分	區郡	患者數	男	女
明治十二年十ヶ月間	淺草區	四十二名	二十八人	十四人
	本所區	二十六名	十九人	七人
	下谷區	十七名	九人	八人
	北豊嶋郡	四名	二人	二人
	京橋區	三名	三人	○
	日本橋區	二名	二人	○
	神田區	二名	一人	一人
	小計 六區一郡	九十六名	六十四人	三十二人
明治十三年	淺草區	三百十八名	二百四十三人	七十五人
	本所區	二百二十三名	百三十七人	八十六人
	下谷區	百三十三名	七十五人	五十八人
	京橋區	六十一名	四十八人	十三人
	神田區	五十八名	三十三人	二十五人
	深川區	十一名	六人	五人
	牛込區	九名	九人	○
	芝區	七名	三人	四人
	日本橋區	四名	四人	○
	北豊嶋郡	三名	三人	○
	麴町區	一名	一人	○
	小計 十區一郡	八百二十八名	五百六十二人	二百六十六人
明治十四年	淺草區	三百三十五名	二百二人	百三十三人
	本所區	二百五十四名	百五十五人	九十九人
	下谷區	二百二十七名	百六十五人	六十二人
	深川區	百○四名	七十三人	三十一人
	京橋區	六十四名	四十一人	二十三人
	神田區	三十九名	十五人	二十四人
	北豊嶋郡	二十六名	十三人	十三人
	芝區	二十三名	十四人	九人
	牛込區	九名	九人	○
	小石川區	六名	○	六人
	麻布區	五名	三人	二人
	日本橋區	一名	一人	○
	本郷區	一名	○	一人
	小計 十二區一郡	千○九十四名	六百九十一人	四百○三人
明	淺草區	二百九十七名	二百○四人	九十三人
	本所區	二百六十二名	百六十五人	九十七人

一 金拾五錢也 證

右正ニ領收候也

明治十七年二月九日

大日本農會主計

田中芳男殿

一六四號

記

一金拾円也

右者同愛社慈恵金正ニ領收候也

明治十七年二月廿三日

日本橋區檜物町十四番地
川崎銀行内

同愛社事務所

田中芳男殿

緘

第二月廿三日發

日本橋區檜物町拾五番地

同愛社事務所

麴町區飯田町五丁目三十番地

牛乳賣捌所

長養軒

郵便はかき

年	區郡	人員	男	女
明治十五年	深川區	二百五十六名	百八十三人	七十三人
	下谷區	二百〇四名	百三十二人	七十二人
	京橋區	百〇七名	六十八人	三十九人
	神田區	七十三名	五十五人	十八人
	本郷區	五十八名	五十二人	六人
	芝區	三十七名	十八人	十九人
	北豊嶋郡	二十八名	二十二人	六人
	日本橋區	十二名	七人	五人
	南葛飾郡	三名	二人	一人
	小石川區	二名	二人	○
	牛込區	二名	一人	一人
	小計十一區二郡	千三百四十一名	九百十一人	四百三十人
明治十六年	淺草區	五百〇六名	二百七十六人	二百三十人
	本所區	三百四十四名	二百二十八人	百十六人
	下谷區	二百六十七名	二百七人	六十人
	深川區	二百五十八名	二百四人	五十四人
	小石川區	百七十五名	百二十七人	四十八人
	本郷區	百十八名	八十九人	二十九人
	京橋區	百〇九名	八十五人	二十四人
	神田區	五十一名	三十八人	十三人
	芝區	三十九名	二十八人	十一人
	北豊嶋郡	二十四名	十七人	七人
	牛込區	二十二名	十五人	七人
	日本橋區	十八名	十一人	七人
	南葛飾郡	十三名	十一人	二人
	四ツ谷區	十二名	九人	三人
	南豊嶋郡	十名	一人	九人
	南足立郡	九名	三人	六人
	赤坂區	三名	三人	○
	小計十三區四郡	千九百七十八名	千三百五十二人	六百二十六人
總合計	十五區四郡	五千三百三十九名	三千五百八十人	千七百五十九人
内譯	全治并治施療中者	四千九百八十九名	三千三百四十五人	千六百四十四人
	死亡ノ者	三百五十名	二百三十五人	百十五人

施藥延日數十一萬三百七十日

明治十七年一月

同愛社

研材產高田庄之北山馳名於海内既久矣而石不通海内者爲天下愛其奇材之故也今開硯山之禁令余店管括而布行其性堅緻牢實光膩纖滑令墨濃細而筆壽亦久有銀絲或有金眼以是驗之其價不待言也矣如研之所言亦得其要

明治元年戊辰夏

美作眞島郡高田庄

研店 大塚姓

一 牛乳

右 日ヨリ 午前 午後 時迄ニ 配達有之度 候也

月 日

廿三日發

本橋區檜物町 番地

[illegible]川東相生町
御菓子司所
常盤堂製

弊店儀多年備後表及び同國の名産たる保命酒其他の銘酒類販賣仕来り尚先年より清酒䑦来酒等も賣捌き候所御愛顧舊に倍し日を逐て繁昌仕候段感銘の至奉存候然るに此度備後煉酒の製法に基き養老花の宴と唱ふる白酒を精製爲致彼雛祭る料花の宴の興のみならず老を養ふの保藥となり養老の名の空しからざるは御用ひの上御試可被下候右を来る三月一日賣出し候に付從来販賣の品にも此際より一層精吟し別而廉價に差上候間不相替御用向の程偏に奉願上候以上

養老花の宴白酒

中村製釀 備後保命酒
醱酵社製釀 各酒
櫻田 麥酒
（大販賣）

各國西洋酒品々
和製名酒品々
清酒味淋醤油類
其他備後疊表綠布荒物品々

東京保命酒本舖
本郷四丁目一番地角
近江屋
小林喜右衛門

三月一日賣出し當日麁景差上候

口上

御一統様御揃益御勇健被遊御坐奉欣喜候扨弊舎西洋乳牛畜養シ數年來牛乳搾取賣捌營業仕候處尚一層勉强ヲ加ヘ配達方迅速ニ致極新鮮ナル良品ヲ手廣販賣仕候間以前ニ倍シ益御愛顧陸續御注文之程伏テ奉願候也

但配達方御間合不申御不都合有之候ハヽ郵便先拂ニテ御申越被下度早速取調可申候

一牛乳　一バタ
一粉ミルク　一コンデンス

右品類御入用之御方様ハ別紙郵便端書指上置候間御用向御認メ御投函被下度奉願候也

明治十七年第三月

麹町區飯田町五丁目三十番地
牛乳搾取賣捌所
長養軒

御得意様
御取次御中

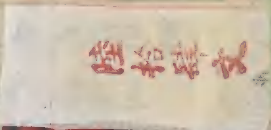
明治十三年十二月

舊記類取調件名

一勸業課保護等ニ屬スル書類
一田制檢地ノ圖書類
一度量權衡ニ關シタル書類
一領主地頭代官所等年貢歩役ノ書類
一地方事務取扱心得書ノ類
一農家五人組村約束等ノ書類
一地主小作人申合ニ關スル書類
一年中行事慣例ノ書類
一各地占候ニ關シタル書類
一耕耘培養開墾土壤等ノ書類
一養蠶製茶ノ事蹟ヲ記スル書類
一物產ノ事ヲ記シタル圖書類
一草木種苗ノ事ニ關スル書類
一內外ノ動植物ヲ移殖セシ事蹟ノ書類
一古代ノ耕織具圖書ノ類
一農事農具改良發明等ノ書類
一禽畜飼收療病及ヒ養魚等ノ書類
一農事ニ關スル治水土功及ヒ建築等ノ圖書類
一力田其佗農事有功者ノ事蹟ニ關スル書類
一物產振起方法見込書ノ類
一屯倉義倉常平倉等ノ方法事蹟ノ書類
一飢荒年度及ヒ救濟方法ノ書類
一戶口增減田畝起廢等ノ書類
一樹林秣場牧場漁場獵漁ニ關スル制度及ヒ申合ノ類
右之外尙農事ニ關係アリト認ムル者ハ總テ記載ヲ要ス

明治十六年一月十三日
午後第壹時ヨリ開門
仝 第二時ヨリ開演
明治會堂邦語演説會入場切符
前席 人族ノ歷年論總論 イビー
○基督敎ト文明進歩ノ關係 仝

明治十六年一月ヨリ三月ニ至ル
明治會堂英語邦語演説會



明治十三年十月

舊記類取調件名

一 勸業課保護等ニ屬スル書類
一 田制檢地ノ圖書類
一 度量權衡ニ關シタル書類
一 領主地頭代官所等年貢歩役ノ書類
一 地方事務取扱心得書ノ類
一 農家五人組村約束等ノ書類
一 地主小作人申合ニ關スル書類
一 年中行事慣例ノ書類
一 各地占候ニ關シタル書類
一 耕耘培養開墾土壤等ノ書類
一 養蠶製茶ノ事蹟ヲ記スル書類
一 物産ノ事ヲ記シタル圖書類
一 草木種苗ノ事ニ關スル書類
一 內外ノ動植物ヲ移殖セシ事蹟ノ書類
一 古代ノ耕織具圖書ノ類
一 農事農具改良發明等ノ書類
一 禽畜飼牧療病及ヒ養魚等ノ書類
一 農事ニ關スル治水土功及ヒ建築等ノ圖書類
一 力田其佗農事有功者ノ事蹟ニ關スル書類
一 物産振起方法見込書ノ類
一 屯倉義倉常平倉等ノ方法事蹟ノ書類
一 飢荒年度及ヒ救濟方法ノ書類
一 戶口增減田畝起廢等ノ書類
一 樹林秣場牧場漁場獵漁ニ關スル制度及ヒ申合ノ類
右之外尚農事ニ關係アリト認ムル者ハ總テ記載ヲ要ス

當演說會ハイビー氏ノ發議ニヨリ社會學、政治學、理學、道德學等ト基督教ノ關係ヲ論說シ併セテ該教ト他諸宗教トヲ比較シテ其異同ヲ辨明セシカ爲メ來一月六日ヲ初會トシ三月廿四日迄左ノ日割ノ如ク明治會堂ニ開場シ更迭英語ト邦語トヲ以演說シ其開每會ノ演說ニツキ諸學士ノ評論質疑ヲ待テ次回ニ其答辨ノ演說ヲモ附スル積ナレハ大方諸彦御來聽アレ又演說ノ都度其評論質疑ハ其后六日間ニ築地明石町五番イビー氏方迄御郵送被下度候

委員

シー、エス、イビー
チー、エイチ、ジエームス
シエー、エー、イウヰング
ジエームス、エム、ヂクソン
トーマス、リンドセー
チヤーレス、ビシヨツプ
神田乃武

○一月六日午後三時ヨリ(英語)
前席、人族ノ歷年論總論 イビー
(基督教ト文明進步ノ關係 全

○一月十三日全(邦語)
前全題 イビー

○一月廿日全(英語)
前席、前演說評論質疑ノ答辨 イビー
○博物學(就中進化說)ト基督教 イウヰング

○一月廿七日全(邦語)
前全題 イビー

○二月三日全(英語)
前席、前演說評論質疑ノ答辨 イビー
○性理學(人トハ何ソ乎) イビー

○二月十日全(邦語)
前全題 イビー

○二月十七日全(英語)
前席、前演說評論質疑ノ答辨 イビー
○歷史ト基督教 ヂクソン

○二月廿四日全(邦語)
前全題 イビー

○三月三日全(英語)
前席、前演說評論質疑ノ答辨 イビー
○基督教ト他教トノ比較 イビー

○三月十日全(邦語)
前全題 イビー

○三月十七日全(英語)
前席、前演說評論質疑ノ答辨 イビー
○基督教ト道德學 イビー

○三月廿四日全(邦語)
前全題 イビー

舊記類取調件名

一勸業課保護等ニ屬スル書類
一田制檢地ノ圖書類
一度量權衡ニ關シタル書類
一領主地頭代官所等年貢歩役ノ書類
一地方事務取扱心得書ノ類
一農家五人組村約束等ノ書類
一地主小作人申合ニ關スル書類
一年中行事慣例ノ書類
一各地占候ニ關シタル書類
一耕耘培養開墾土壤等ノ書類
一養蠶製茶ノ事蹟ヲ記スル書類
一物産ノ事ヲ記シタル圖書類
一草木種苗ノ事ニ關スル書類
一內外ノ動植物ヲ移殖セシ事蹟ノ書類
一古代ノ耕織具圖書ノ類
一農事農具改良發明等ノ書類
一禽畜飼收療病及ヒ養魚等ノ書類
一農事ニ關スル治水土功及ヒ建築等ノ圖書類
一力田其佗農事有功者ノ事蹟ニ關スル書類
一物産振起方法見込書ノ類
一屯倉義倉常平倉等ノ方法事蹟ノ書類
一飢荒年度及ヒ救濟方法ノ書類
一戸口增減田畝起廢等ノ書類
一樹林秣場牧場漁場獵漁ニ關スル制度及ヒ申合ノ類
右之外尚農事ニ關係アリト認ムル者ハ總テ記載ヲ要ス

明治十三年十一月

○通券ハ委員又ハ明治會堂前茶屋ニテ御請取被成度候但通券無料
○演說會日ノ都度モ前ニ廣告スベシ又會場ノ時刻等更變候ハヾ其都度廣告スベシ

明治十四年第二回勧業博覽會賞功有賜

亞麻布手拭

亞麻布廣告

夫亞麻布ノ産タルヤ　皇國未タ其製アルヲ聞カス京都府下三角有紀氏嘗テ其種子ヲ得テ試ニ之ヲ栽ルニ幸然土性ニ適シ頗ル其佳品ヲ得タリ然レ圧紡績ノ術未タ其精熟ヲ究メス之ニ因テ百方心思ヲ焦シ研究スルヿ十數年遠ク海外ニ器械ヲ購得シ廣ク工女ヲ募集メ其伎倆ヲ練習セシメ竟ニ純粹ノ亞麻布ヲ織成スルヿヲ得タリ其質ノ堅靭ナル其色ノ潔白ナル能汗ヲハチク等ノ効用ハ多言ヲ竢タズ其澣濯スル毎ニ彌其色ノ潔白ヲ鮮明ニシ其質ノ堅靭ヲ増加スルヿ尋常綿布ノ及フ所ニ非ス此ニ於テ彌其工業ヲ擴張シ其販賣ヲ盛大ニシ終ニ一箇ノ國益ヲ興シ輸入ヲ防クノ微衷ヲ盡サント欲ス伏シテ希クハ四方ノ君子其志ヲ憫ミ之ヲ購求メ其實用ノアル所ヲ試験シ余カ言ノ誣サルヿヲ諒知シ玉ハンヿヲ

京都亞麻開成社

附白亞麻油モ亦純粹精良ナル物ヲ製造ス幸ニ愛顧ヲ惜ム勿レ

御料理 田川

金龍樓 田川

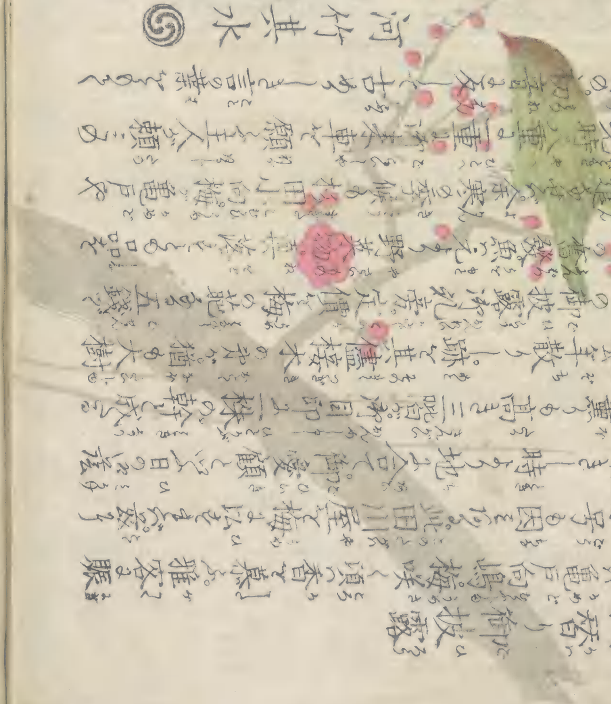
浅草観世音仲見世 繪双紙屋横町 馬道貳丁目角

[illegible]

○[illegible]

河竹其水

[illegible]



○ 温泉

例年の通り来ル四月十五日より相開申候

但シ御入湯御勝手次第

[illegible]

白酒 醤油 味淋 名酒 大安賣

正札附 御髪結床の[illegible]

大安賣

東京上野町 [illegible]番地

[illegible]

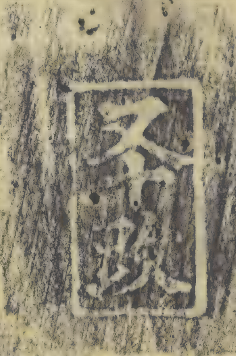
本玉水晶玉類 七寶類 品々

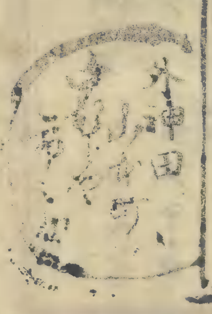
請合

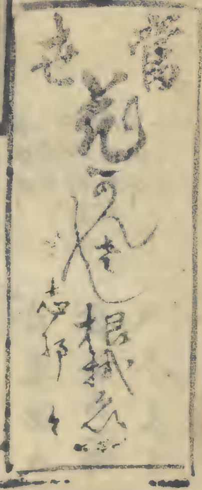
名石細工所

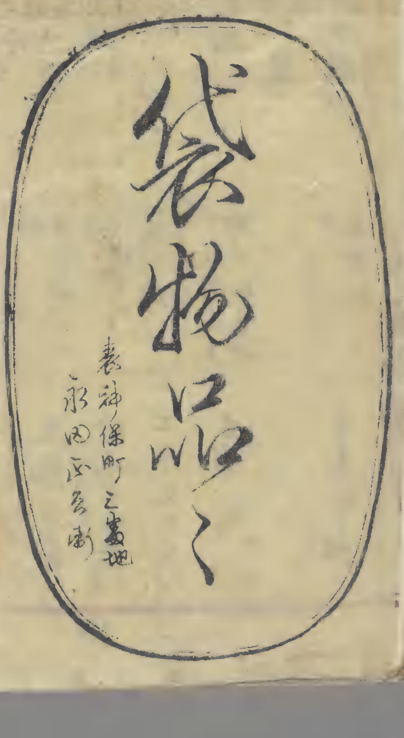
連雀町 相原幸吉

鮭入箱
上ノ焼印
十七年二月印刷









廣告

夫レ嵐山ハ距今千有餘年弘仁十三年ノ際ニ當リ霖雨數々降リ河水暴漲堤防破壞シ或ハ田面ヲ淪沒シ又時トシテ水源沽渇スル等ノ憂アルニ因リ嚴ニ樹木伐採ヲ禁(大堰川筋一田)ゼシメ給ヒシ所ノ一部分ニシテ其後此地ニ

寛平法皇紅楓ノ御遊アラセラレシヨリ紅葉ノ勝時ニ顯レ又

後嵯峨院天皇

龜山院天皇 仙洞ヲ此地ニ營ミ大和國吉野山ノ櫻ヲ移植シ給ヒシヨリ櫻花ノ觀世々ニ盛ンニシテ櫻楓ノ景乃チ本邦第一ノ稱ヲ得春秋ノ候ニ至テハ遠近ノ人士此ニ來遊スルモノ陸續斷エザルノミナラス其名遂ニ遐邑ニ達シ海外人モ亦遊蹤ヲ絶タザルニ至ル洵トニ本邦ノ輝光ヲ添ヘ土地ノ繁榮ヲ增スモノ此勝區ニ若クモノナキナリ然リ而シテ近來年ヲ追テ其櫻楓ノ老枯スルモノ少ナカラス如此ニシテ數年ヲ經バ其名終ニ其實ニ背カントス誠ニ遺憾ノ極ニ非ズヤ因テ今般同志相謀リ該山滿峽ヘ櫻楓及松樹ノ類ヲ移植培養シ彼禁伐ノ古制ト

聖帝御愛ノ遺景ヲ存シ又輝光ト繁榮ヲ万世無疆ニ保維セント欲ス冀クハ諸君一株二株ノ多少ヲ問ハズ各自厚志ニ隨ヒ妄ニ寄附アランコヲ

明治十六年六月

發起人 谷鐵臣

山中獻

伊勢華

中川武俊

有吉三七

櫻
楓
松
右各壹株ニ付代金五錢

(御用印刷所 商報會社)

經驗 蒼生膏發賣廣告 壹貝定價金拾錢

昔よりけそへ藥と唱ひ黑燒の粉の如きものをゝありと然れども其名のみよして効能あきを以て近頃よいたり稍すたれり抑此けそへくすり蒼生膏ハ余が多年經驗より發明する所の眞藥よして凡そ多く用ふるよ一人として其効能あらざるものあし諸君試みて其僞りあらざるを知り玉ふべし

○主治凡そ頭の毛のぬけるもの又眉其他下のけのそへぬに朝夕摺付てよし○總て毛のぬけるものハ朝夕摺付てぬけを止め能き毛をそやすあり

○但し十日や廿日用ではへぬも永く數十日も續けて用ふる時ハ必ずはへるあり尤も老人とありて禿たるもの又ハ大火傷等よて禿たるものハ効あし

○神令水 きちがひ一切神經病の妙藥

○清女散 あかちそらち其外子宮病よよし

○金水散 口中のたゞれはれむしばあとよよし

○愛花錠 ふさぎむねはらいたみ二日えひよよし

官許製藥所 本家資生堂 東京出雲町十八番地 福原謹製

大取次賣弘所 櫻香本舖 同 下谷車坂町 守田重兵衛

看花諸君ノ便宜ヲ計リ定時列車之外本月廿六日ヨリ當分左ニ表記之通リ上野王子間臨時列車差立候尤モ風雨之節ハ差止候事モ可有之候事

但往復切手上等金貳拾錢下等金拾錢

明治十七年三月

日本鐵道會社

上野發	
午前	十時
午後	十二時三十分
	一時三十分
	二時三十分
	三時四十分
	四時五十分

王子發	
午前	十時五十分
午後	十二時五十五分
	一時五十五分
	三時十五分
	四時二十五分
	五時三十分
	六時

紅梅香

東京市谷砂土原町
貳丁目一番地
宍戸昌

物品會課題

每月第二土曜日午后第二時ヨリ愛知縣名古屋區西二葉町植物園ヘ集會ス
每月廿五日社員各邸ニ於テ輪會ス
午後第四時ニ開會第十時ニ閉會ス

愛知縣下 嘗百社

第二土曜

一月 橙橘科
二月 松柏科
三月 楊柳科
四月 薔薇科
五月 十字科
六月 禾本科
七月 禾本科
八月 葫蘆科
九月 羊齒科
十月 柿樹科
十一月 穀菽類
十二月 木材品

二十五日

礦石類
海魚類
海藻科
種子類
食用植物
種子類
藥用植物
蟲類
石南科
蟲類
纖維植物
水蟲類
纖形科
河魚類
地衣科
蔘科
有毒植物
菌蕈科
苔蘚科
鳥類
鱗翅類
金石類
哺乳獸類

右課題ノ物品同好ノ諸君左ノ社員邸ヘ惠賜寄贈アランコヲ冀フ

明治十七年一月

名古屋區長久寺町十六番邸 石黑濟菴
同區鍋屋町貳番邸 菊池有英
同區本町二十一番邸 內田健之烝

明治十七年二月十六日卒業証書授與式手續

一 本日午前第九時皇族敕奏任官以下第二式場に入る此際奏樂
一 皇族以下の着牀を待て女兒小學校生徒第二式場に入る
一 唱歌
一 女兒小學校監事演述
一 前學年小學校全科卒業証書及各級修業証書授與
一 當學年小學校全科卒業証書及各級修業証書授與
一 小學校優等生徒へ賞品授與
一 前學年小學校全科卒業生總代佐波やへ子謝辭を朗讀そ
一 當學年小學校全科卒業生總代神保ふき子謝辭を朗讀す
一 唱歌
一 皇族敕奏任官以下第二式場を出つ此際奏樂
一 皇族敕奏任官以下第一式場に入る此際奏樂
一 唱歌
一 校長演述
一 前學年高等女學校各級修業証書授與
一 當學年高等女學校各級修業証書授與
一 高等女學校優等生徒へ賞品授與
一 前學年女子師範學科卒業證書及各級修業証書授與
一 前學年女子師範學科卒業生總代紳とく子謝辭及朗讀す
一 當學年女子師範學科卒業証書及各級修業証書授與
一 當學年女子師範學科卒業生總代福島ます子謝辭及朗讀す
一 文部卿演述
一 唱歌
一 皇族敕奏任官以下第一式場を出づ此際奏樂
畢

東京女子師範學校

五月　十字科
六月　禾本科
七月　禾本科
八月　葫蘆科
九月　羊齒科
十月　柿樹科
十一月　穀菽類
十二月　木材品

藥用植物類
蟲類
石南科
蟲類
纖維植物
水蟲類
纖形科
河魚類
地衣科
蔘科
有毒植物
菌蕈科
苔蘚科
鳥類
鱗翅類
金石類
哺乳獸類

右課題ノ物品同好ノ諸君左ノ社員邸ヘ惠
賜寄贈アランコヲ冀フ

明治十七年一月

名古屋區長久寺町十六番邸
石黒齊菴

同區鍋屋町貳番邸
菊池有英

同區本町二十一番邸
内田健之烝

紅梅香

東京市谷砂土原町
貳丁目一番地
宍戸昌

明治十七年二月十六日卒業証書授與式手續

一　本日午前第九時皇族敕奏任官以下第二式場に入る此際奏樂
一　皇族以下の着牀を待て女兒小學校生徒第二式場に入る
一　唱歌
一　女兒小學校監事演述
一　前學年小學校全科卒業証書及各級修業証書授與
一　當學年小學校全科卒業証書及各級修業証書授與
一　小學校優等生徒へ賞品授與
一　前學年小學校全科卒業生總代佐波やへ子謝辭と朗讀す
一　當學年小學校全科卒業生總代神保ふき子謝辭を朗讀す
一　唱歌
一　皇族敕奏任官以下第二式場を出つ此際奏樂
一　皇族敕奏任官以下第一式場に入る此際奏樂
一　唱歌
一　校長演述
一　前學年高等女學校各級修業証書授與
一　當學年高等女學校各級修業証書授與
一　高等女學校優等生徒へ賞品授與
一　前學年女子師範學科卒業證書及各級修業証書授與
一　當學年女子師範學科卒業生總代柿とく子謝辭を朗讀す
一　前學年女子師範學科卒業証書及各級修業証書授與
一　當學年女子師範學科卒業生總代福島ます子謝辭を朗讀す
一　文部卿演述
一　唱歌
一　皇族敕奏任官以下第一式場を出づ此際奏樂
畢

東京女子師範學校

塩業諮問會掛員並會員姓名

會頭	農商務少書記官	關澤明清
番外員	仝　一等屬	青柳忠一
	仝　五等屬	町田實則
	仝　六等屬	岩島匡徵
理事	仝　六等屬	中村孝
書記	仝　七等屬	竹内太郎
	仝　七等屬	藁品槍太郎

會員

壹番	愛媛縣讃岐國香川郡五番町	井上三藏
貳番	兵庫縣播磨國赤穂郡尾崎村	山本大助
三番	山口縣長門國豐浦郡宇部村	坂野頁造
四番	兵庫縣播磨國赤穂郡塩屋村	井上平三郎
五番	山口縣周防國佐波郡濱方村	山根健索
六番	徳島縣阿波國那賀郡苔島村	原梅吉
七番	愛媛縣伊豫國野間郡波止濱	藤原幸八
八番	兵庫縣播磨國揖東郡新在家村	中圓尾善左衛門
九番　欠席	岡山縣備中國淺口郡寄島村	仁科貞作
十番	愛媛縣讃岐國阿野郡林田村	瀧虎三郎
十一番	徳島縣阿波國板野郡高嶋村	福永慶治
十二番	兵庫縣播磨國印南郡大塩村	田中仁一郎
十三番	仝縣仝國仝郡的形村	井上惣七
十四番	山口縣周防國佐波郡濱方村	秋頁貞臣
十五番	仝上	山根治六
十六番	仝上	小林精一
十七番	愛媛縣伊豫國新居郡多喜濱	天野市太
十八番	徳島縣阿波國板野郡大桑島村	谷盛藏
十九番	山口縣周防國佐波郡濱方村	貞永知介
廿番	兵庫縣播磨國飾東郡木場濱	明石松右衛門

廿一番	愛媛縣讃岐國香川郡福下村	七條伊六
廿二番	兵庫縣播磨國飾東郡白濱村	置塩万九郎
廿三番	山口縣周防國佐波郡濱方村	板村慶介
廿四番	兵庫縣播磨國印南郡西濱村	田中定十郎
廿五番	廣島縣安藝國賀茂郡下市村	高橋義太郎
廿六番	仝上	頼端造
廿七番	愛媛縣讃岐國三野郡詫間村	松田寛吾
廿八番	岡山縣備前國兒島郡味野村	三宅大五郎
廿九番	徳島縣阿波國板野郡齋田村	志摩茂吉
卅番	兵庫縣播磨國揖東郡吉備村	酒井新兵衛
卅一番	山口縣周防國佐波郡西ノ浦村	藤田貞三
卅二番	徳島縣阿波國板野郡南濱村	村澤銀藏
卅三番	徳島縣阿波國名東郡南齋田村	東條芳藏
卅四番	岡山縣備前國兒島郡田井村	井上哲二
卅五番	愛媛縣讃岐國香川郡高松	西條欣吾
卅六番	愛媛縣伊豫國越智郡藏敷村	富嶋格
卅七番	廣島縣備後國沼隈郡藤江村	山路右衛門七
卅八番	山口縣周防國熊毛郡東荷村	林三樹介
卅九番	岡山縣備前國兒島郡下村	渾大坊益三郎
四十番	廣島縣備後國沼隈郡松永村	岡本脩吉
四十一番	山口縣周防國佐波郡西ノ浦村	林藤三郎
四十二番	岡山縣備前國邑久郡鹿忍村	田淵嘉十郎
四十三番	愛媛縣讃岐國阿野郡阪出村	久米與平
四十四番	廣島縣安藝國豐田郡林村	土居東一郎
四十五番	廣島縣安藝國豐田郡瀬戸田町	得能善兵衛
四十六番	兵庫縣播磨國赤穂郡加里屋町	平田精二
四十七番	愛媛縣伊豫國新居郡多喜濱	岡本譽一郎
四十八番	徳島縣阿波國板野郡高島村	美保平曹
四十九番	廣島縣備後國御調郡吉和村	財間英三
五十番	廣島縣備後國御調郡向島西村	豐田維德

別品
あふお
兵庫匠町
音羽龍

田中芳男殿

DREER'S GARDEN CALENDAR

From H. A. DREER,
Seedsman and Florist,
714 Chestnut St.,
PHILADELPHIA, PA.

If not called for in ten days, the Postmaster will oblige us by handing it to some one interested in Horticulture.

上野山内
農務局官舎
田中芳男殿

Mr Tanaka Yoshio
Tokio
Japan

御用向

田中芳男殿

驛遞寮

種痘積善社ハ施種ヲ以テ趣旨トシ即チ明治十年始メテ社ヲ結ビ同十一年ノ春天行痘流行ノ際小児貳萬三千七百十八人ヲ救助シ右御賞トシテ府廳ヨリ銀盃ヲ戴キ且今般各郡區貧民施種ノ儀改メテ當社ニ御委任ニ相成社員一同尚更勉強可仕就而ハ當社永續資金之儀是迄　宮内省ヨリ恩賜ヲ辱シ兩大臣殿下始メ諸貴紳幷ニ諸有志ヨリ御慈恵モ有之候得共未ダ充分ノ資本ニ至ラズ仍テハ各様思召ヲ以テ若干ノ金圓御寄附被成下度此段奉懇願候也

但金圓之儀ハ當社々員參上之節御附與被下候歟又ハ日本橋區本町三丁目十八番地松本市左衛門同町八番地小西九郎兵衛兩人之内ヘ御郵送被下候得者即時假領収証差上置追而本領収証ト御引換可申上候

東京京橋區弓町十七番地
種痘積善社々員惣代

社長　大野松齋
同　奥山玄仲
同　大野恒德